

内視鏡センター

センター長 万波 智彦（消化器内科）
副センター長 佐藤 賢（呼吸器内科）

● 内視鏡センターの特色

- ・苦痛の少ない鼻から挿入する経鼻内視鏡検査や拡大して病変の詳細な観察が出来る拡大内視鏡検査をはじめ、現在国内で施行可能な内視鏡検査のほぼ全てが施行できる。
- ・上部消化管・下部消化管・胆膵内視鏡を中心に、消化器疾患全般を診療している。
- ・上下部内視鏡において、腫瘍の早期発見、範囲同定を拡大観察や特殊光を用いた狭帯光観察(NBI)で行っている。
- ・内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を用いた、消化管の早期癌に対する内視鏡的治療に力を入れている。
- ・ダブルバルーン小腸内視鏡、小腸カプセル内視鏡の両者を導入しており、多彩な小腸疾患にも対応可能である。

● 内視鏡検査実績

1) 検査件数

上部内視鏡総数	下部内視鏡総数	ERCP 総数	カプセル内視鏡	ダブルバルーン 小腸内視鏡	気管支鏡
2,615	1,358	255	(小腸)35(大腸)0	37	376

2) 詳細

a) 上部消化管内視鏡

種類	件数
ESD	77
EMR・ホリヘクトミー	7
EUS	110
PEG	39
ステント挿入	6
止血術	39
EIS・EVL	7
APC 焼灼(止血以外)	16
異物除去	9
バルーン拡張	23
FNA	29
経鼻	37
LECS	3
イレウス管	34
マーキング	42

b) 下部消化管内視鏡

種類	件数
EMR・ホリヘクトミー	285
ESD	35
EUS	7
ステント挿入	10
止血術	12
捻転整復術	4
イレウス管	1
マーキング	6
バルーン拡張	2
APC 焼灼(止血以外)	4

c) ERCP

種類	件数
造影のみ	5
EST	71
EML	31
排石	105
ENBD	5
ERBD	108
EPBD	12
膵管ステント	25
ブランチ細胞診	22
ステント挿入	10
胆汁採取	28
膵液採取	7
IDUS	15
胆道バルーン	1

3) 研修、教育

地域合同 ESD カンファレンス	1 回/月
読影カンファレンス	1 回/週

● 活動目的

➢ 運営目標

- 患者さんに快適な治療環境を提供します。
- 安全で確実な投与に努めます。
- 患者さんが自己管理できるように支援します。
- 治療に関する情報提供に努めます。

● 活動状況

➢ 2020年度の活動状況

・2020年度外来化学療法センター利用件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
血液内科	178	187	185	186	158	168	185	155	167	162	154	160	2,045
呼吸器内科	64	58	67	65	70	59	65	54	61	50	49	57	719
消化器内科	68	52	83	71	71	77	72	80	71	82	81	96	904
腫瘍内科	19	16	15	17	12	7	13	6	13	12	10	17	157
乳腺・甲状腺外科	19	10	16	15	16	23	25	27	28	23	24	27	253
泌尿器科	6	3	8	12	8	7	5	6	9	9	7	5	85
脳神経外科	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	4	28
婦人科	0	1	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	7
腎臓内科	2	2	2	2	1	1	3	2	3	2	2	2	24
循環器内科	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	5
整形外科	2	2	2	3	3	3	2	2	2	2	2	2	27
耳鼻科	3	1	0	0	1	3	4	4	4	6	4	6	36
皮膚科	1	1	0	1	1	0	1	0	1	0	1	0	7
小児科	1	0	1	1	2	1	0	0	1	0	1	1	9
神経内科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	367	336	382	376	346	352	380	339	364	351	337	377	4,307

* 2014年8月よりデノスマブ、ホルモン療法剤は外来処置センターへ移行。

・2020年度外来化学療法センターベッド利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均(件)
1日平均利用状況	18.4	15.3	17.4	17.1	15.7	16.0	17.3	15.4	19.2	18.5	17.7	18.9	17.2

透析センター

センター長 太田 康介(副統括診療部長)

● 概要

透析センターは、センター内の血液透析や血液浄化療法、看護師の入院外来腹膜透析診療・腎移植診療への参加、保存期腎不全患者への腎代替療法の説明を行っています。

業務は主に腎臓内科医師、看護師(7A 所属)、臨床工学技士が従事しています。

● 実績

1. 血液透析

血液透析は同時に最大 5 名施行。月水金午前・午後、火木土午前の 3 クールで受け入れ人数 15 名(通常 1 人当たり週 3 回治療)。臨時に火木土午後に 5 名まで透析を行う場合がしばしばあった。

2020 年度は、延べ透析回数 2600 回、(透析)患者数 322 名。

<月別延べ患者数および稼働率(稼働率=透析施行者数÷最大施行可能数×100)>

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
透析回数(回)	195	181	238	233	240	226	209	205	201	235	222	217	合計 2,600
稼働率(%)	99.0	92.8	122.1	113.7	123.1	115.9	102.0	107.9	100.5	120.5	123.3	105.9	平均 110.4

<診療科別のべ透析回数、新患者数(2019 年度入院患者)>

診療科	のべ	新	診療科	のべ	新	診療科	のべ	新
腎臓内科	896	96	血液内科	61	2	乳腺・甲状腺外科	7	3
整形外科	317	38	婦人科	52	4	泌尿器科	5	7
心臓血管外科	309	14	総合診療内科	47	4	脳神経外科	5	1
循環器内科	201	80	形成外科	34	2			
消化器内科	152	16	皮膚科	25	4			
脳神経内科	145	12	耳鼻咽喉科	24	5			
外科	124	14	呼吸器内科	14	4			
腎臓移植外科	111	12	糖尿病・代謝内科	11	2			

・患者内訳:維持血液透析 322 名。

血液透析導入 32 名(糖尿病性腎症 12 名、腎硬化症 10 名、多発性嚢胞腎 3 名、IgA 腎症 2 名、その他 5 名)。

腎移植後再導入 3 名。急性腎障害 12 名(死亡 2 名)。

慢性腎臓病増悪(一時的に透析)4 名。死亡退院 13 名。

・手術患者(内シャント作成以外)99 名、内シャント作成・再建 68 名(同一患者複数回数あり)

腹膜透析カテーテル留置 15 名

2. 血漿交換療法などの血液浄化療法

院内の血漿交換、LDL アフェレーシス、免疫吸着療法などの血液浄化療法(合計 204 例)のうち病棟と透析センターで施行された症例の大半は透析センターが関与し臨床工学技士が施行した。

3. 腹膜透析

<入院>

腹膜透析導入(7A 病棟入院)の治療へ参加し入院患者への教育指導、病棟看護師への教育指導を行っている。そのほか、他病棟入院中の腹膜透析診療へのサポートを行う。

<腹膜透析外来>:

毎週木曜日午後1時半からの腹膜透析外来(2つの診察室、毎週 5 人~10 人)の患者受診時に、医師診察に加えて透析センターと病棟の看護師が参加している。看護師は、2週から1カ月の在宅療養の情報収集、清潔操作の確認と必要時追加指導を行う。また外来患者の腹膜透析カテーテル延長チューブの定期交換(外来にて)と、不潔操作・感染時など緊急時の交換(外来、7A 病棟)を担当している。

今年度腹膜透析導入 11 名(糖尿病性腎症 4 名、腎硬化症 3 名、IgA 腎症 2 名、腎移植後再導入 2 名)、離脱(HD 変更、転医)0 名、入院患者数のべ 23 名。年度末外来患者 29 名(うち PD/HD 併用患者 7 名)

4. 腎移植関連

<献腎移植登録および腎移植(当科患者のみ)>

・当科通院患者・透析導入患者のうち 2020 年度に、4名に新規の献腎移植登録を行った。同様に、生体腎移植は 1 名(二次移植)だった。

<腎移植外来>移植後の外来通院患者への生活指導、移植予定患者の面談や手術オリエンテーション実施、献腎移植登録患者のデータ整理や登録更新手続きの援助。

<腎移植外来以外での活動>(主に移植コーディネーター)

- ・病棟での移植患者カンファレンス参加(移植手術に合わせて術前、術後)
- ・順正高等看護福祉専門学校講義「臓器移植の現状と基礎知識」

5. 療法選択説明(「療法選択」外来)

医師から指示のあった患者を対象に透析センター看護師が腎代替療法(腹膜透析・血液透析・腎移植)の説明と見学を実施、腎臓内科医師による説明を行っている。患者の療法選択にあたって、医師以外の職種による説明も行うことで意思決定支援の助けとすること、医療者と患者がお互いの情報を共有すること、選択に当たっての医療者側の見解をより明確にすることを目的としている。

火曜日: 14 時~16 時(1 時間/人 保存期腎不全患者を対象) 腎臓内科医による依頼・予約。

医師から依頼のあった患者を対象に看護師が腎代替療法の説明を実施。

患者数 38 人(外来 29 人 入院 9 人)同一患者複数回あり、小児科 1 名含む

上記名の転帰(2021 年 3 月まで)

腹膜透析導入 7 人、血液透析導入 9 人、未導入 5 人、未定 12 人、非導入 2 名、死亡 1 人

(腹膜透析導入は小児科 1 名含む)

6. 透析機器管理

主に技士にて対応している。内容は、透析機器の定期点検、透析液の浸透圧測定、エンドトキシン(ET)測定、透析装置の定期部品交換、機器トラブル時の点検・修理に当たる。

<透析機器点検・修理の件数>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
点検・修理	6	5	5	6	18	9	5	7	5	5	5	5	81
エンドトキシン、細菌数測定	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	5	3	96

透析機器トラブル(水漏れ1件)

7. 透析機器安全管理委員会・透析センター運営委員会

原則奇数月に会議を行い透析センター運営にかかわる項目について討議検討。透析センター長、看護師、技師、病院幹部(副院長、副看護部長)、医療安全管理課長、専門職(透析機器安全管理委員会のみ)の出席で6回開催した。書記・記録は腎移植/透析センター医療クラーク。

● 各部門から

1. 医師部門

2020年度は腎臓内科4名(常勤3名、専攻医1名)。ローテートの専攻医、研修医の一部が参加した。科の診療は腎臓内科に記載。

診療上の目標は急性期透析患者(血液・腹膜)の入院における目標達成までの適切な管理を行うこと、透析導入患者においては維持透析へ身体的管理・患者教育や支援・導入後の環境整備を行うことである。医師個人の目標としては、管理治療能力をEBMに沿って各種ガイドラインを活用しながら取得・向上すること、急性期病院における手技(各種アクセス管理など)を取得することである。

評価:維持透析導入例は概ね維持透析施設への転院、当院外来通院が達成された。長期予後については調査できていない。レジデントは血液透析の基本管理能力は取得できている。

2. 看護部門

○看護の具体的な目標と評価(2020年度)

(1) 専門職として安全で質の高い看護提供

1) 腹膜透析入院時マニュアルを作成し、腹膜透析経験の少ない病棟にも必要物品や観察事項がわかるようにしている。マニュアルは適宜追加、修正を行っている。混乱しないよう伝達できるツールとしていきたい。

2) 個別性のある患者指導を目標に、腹膜透析ミーティングを4月から毎月定期的で開催し、腎移植患者カンファレンスを全症例17件行えた。

3) 療法選択説明においてSDM(協働する意思決定)研修会での学びを活かしている。

腎臓病療養指導士の資格を有している看護師を中心に、療法選択説明の充実を図っている。

2019年度の療法選択件数は42件、2020年度は38件と件数は前年度より下回ってはいるが説明時にDVD視聴を取り入れ、より患者が理解できるように工夫している。

2回目の療法選択を行うなど患者の状態に応じて複数回の説明を行っている。

(2) 病院運営・経営に参画する。

1) 透析患者数増加に伴い、患者の全身状態を踏まえベッド配置など配慮している。

2) 毎週物品定数チェックにて適正な物品管理ができている。SPDシールは7件紛失。死蔵品を減少させるため、定数変更を行った。

(3) 患者の視点に立った医療安全を推進する。

- 1) インシデント件数8件(レベル 1:①検体採取忘れ、②抗凝固剤過少投与・過剰投与、レベル2:FAXの誤送信、レベル3a:過除水、表皮剥離)再発防止のため、メディカルサーバーで ME とともに振り返りを実施した。
- 2) アルコール使用状況は昨年度に比べ使用量が 1.58%増加している。年度内は一定数で経過している。標準予防策・手洗いを徹底し透析室が原因となる感染拡大の報告はない。
- 3) 5S 活動を推進した。

(4) 専門職としての能力開発に努める。

- 1) 日本移植学会総会にオンラインで 1 名参加した。
- 2) 緊急時の対応のシミュレーションを実施した。

(5) 看護の先輩として後輩育成に携わる。

- 1) 腹膜透析に関しては病棟からも 1 名腹膜透析外来に参加するようになり外来患者の情報共有ができるようになった。後輩育成にて外来業務を指導。外来患者のトラブル時の対応についても指導を行った。また、APD(かぐや:バクスター社)の操作方法や設定方法などの指導を行った。
- 2) 腎移植に関しては、腎移植外来に病棟看護師と共に腎移植外来診療に携わり、前年度より水・木曜日に 1 人ずつ立ち会い始め、今年度も継続している。

(6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推進する。

- 1) 看護師 3 人/日以上の日、年次休暇を取得できた。
- 2) 透析患者数に合わせて適宜、勤務変更を実施し業務調整を行った。
- 3) 看護師と ME で窓口を 1 人ずつ決め、意見交換し、チームワークを高めるよう努力した。
- 4) 超過勤務に関して、火・水・金曜日を日勤 ME に依頼した。

3. 技師部門

8 名の ME が透析センターでの業務に携わった。一日あたり 1~2 名が平日に透析センターにて準備、血液透析の機器管理にあたった。

臨床業務では、エコーを用いて血管の走行や径の把握などを行い、エコーガイド下穿刺を行うことで、穿刺が困難な患者に対応するなど、シャント管理や穿刺技術の向上に努め、シャントトラブルの予防を目標とする。

機器管理においては、透析装置の毎月行う定期点検や部品交換などの保守点検を行い、安全に透析を行うことを目標とする。

水質管理においては、透析液清浄化ガイドラインに基づき、安全で清浄な透析液を担保するために、水処理システムの適正な運用とその維持・管理を継続している。

4. 薬剤師

7A 病棟所属の薬剤師 1 名(腎臓病療養指導士:日本腎臓病協会)が、CKD 患者にその知識を踏まえた薬剤指導を実践している。

● 活動目的

1. 当院は臓器移植に関わる業務を施行しており、院外の関連機関とも連携し移植医療に関する情報を社会一般に発信し啓発活動を行っています。

● 活動状況

1. HLA 検査施設としての活動; 当院は腎移植施設だけではなく、岡山県の HLA 検査施設および日本臓器移植ネットワークの特定移植検査センターに指定されており、その業務を行っています。
 - 1) 生体腎移植前のドナー、レシピエントの免疫学的評価—ヒト白血球抗原(HLA)タイピング、リンパ球交叉試験(直接細胞障害性検査及びフローサイトメトリー法)、抗 HLA 抗体スクリーニング・同定検査、ABO 不適合移植の際の抗 A,B 抗体の力価の測定など—を行っています。
 - 2) 献腎移植登録時の HLA タイピング、血清の保存。1年ごとの登録更新時に血清の交換、保存。
 - 3) 岡山県及び近県で臓器提供があった場合、日本臓器移植ネットワークの要請の基づき、当院でドナーの HLA タイピング、レシピエント候補との交叉試験を行い、臓器移植ネットワークに報告しています。
 - 4) 腎移植レシピエントの抗 HLA 抗体モニタリング検査を移植後1年毎に行っています。

2020 年度の移植関連検査

	件数
● 献腎移植登録希望者新規登録時のHLAタイピング	28
● 生体腎のHLAタイピング(ドナー+レシピエント)	50
● 生体腎移植リンパ球クロスマッチ (CDC、FCXM)	31
● 抗 HLA 抗体検査(スクリーニング・特異性同定)	275
● 移植ドナー検査(脳死+心停止)	
山口:1件 岡山:4件 兵庫:1件 香川:1件	
HLAタイピング	9
クロスマッチ数(レシピエント候補数)	321
外部精度管理:	
移植学会(2020年4月実施)	
組織適合性学会(2020年4月実施)	

2. レシピエント・コーディネーターの活動; 臓器移植医療とはドナーとレシピエントの存在によって成立するという特殊性のため、レシピエント・コーディネーターは、医療チームと患者・家族の間に立ち、臓器移植プロセスを円滑に実施できるように調節する専門職です。
 - 1) 生体腎移植の際には、移植前のドナー、レシピエント評価より関わり、ドナーの意思確認、意思決定などを援助します。移植が決まった際にはドナー、レシピエント及びその家族に、移植医療

の実際を具体的、総合的に説明し円滑に移植が行われるように支援します。

- 2) 腎移植外来でレシピエントのフォローに関わり、患者の身体的管理、精神的援助を行います。
3. 公益財団法人岡山臓器バンク、公益社団法人日本臓器移植ネットワークと連携し移植医療一般の啓蒙、脳死下・心停止後の臓器提供が円滑に施行できるように社会活動を行っています。
 - 1) 県臓器バンクの移植コーディネーターと密に連携し献腎移植が円滑に行えるように準備しています。
 - 2) 県臓器バンクのコーディネーターと共同で腎移植医療の実際、献腎移植の登録法などについての講演会を透析施設で行っています。
 - 3) 県臓器バンク主催の臓器移植に関する講演会、啓蒙活動を支援しています。

● 研究業績

腎臓移植外科の研究業績と同一。

●活動目的

1. 目的

当院における適切な医療安全管理を推進する。

2. 活動内容

- 1) 医療安全に関する日常活動に関すること
- 2) 委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存並びにその他委員会の庶務に関すること
 - ① 医療安全に関する現場の情報収集及び実態調査
(定期的な現場の巡回・点検、マニュアルの遵守状況の点検)
 - ② マニュアルの作成及び点検と見直しの提言等
 - ③ インシデントレポートの収集、分析、再発防止策の検討、分析結果などの現場へのフィードバックと集計結果の管理、具体的な改善策の提案・推進とその評価
 - ④ 医療安全に関する最新情報の把握と職員への周知
 - ⑤ 医療安全に関する職員への啓発、広報
 - ⑥ 医療安全に関する教育研修の企画・運営
 - ⑦ 医療安全対策ネットワーク整備事業に関する報告
 - ⑧ 医療安全管理に係る連絡調整
- 3) 医療事故発生時の指示、指導等に関すること
 - ① 診療録や看護記録等の記載、医療事故報告書の作成等について、職場責任者に対する必要な指示、指導
 - ② 患者や家族への説明など、事故発生時の対応状況について、職場責任者に対する必要な指示、指導
 - ③ 警察等の行政機関並びに報道機関等への対応(窓口は、管理課長とする)
 - ④ 医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導
 - ⑤ 医療事故の原因分析に関すること
 - ⑥ 医療事故報告書の保管
- 4) その他医療安全対策の推進に関すること
- 5) 医療安全管理室を中心にセーフティマネージャー会議を設置する。会議の開催は概ね月1回とする。委員は院長が指名する。

3. 医療安全管理室の運営目標(2020年度)

1. 組織横断的なメンバー活動を強化し、各部門での医療安全に対する認識・実践力を高める
2. 事例分析・検討の結果をフィードバックし、3a以上のインシデントの減少を目指す(前年度280件)
3. 院内ルールの遵守・6S活動の強化・定着を図る

●活動状況

1. 医療安全活動状況

a) 安全管理マニュアル等の改定

1. せん妄対策マニュアル
2. 在宅使用が想定される人工呼吸器
3. 電波による人工呼吸器への影響
4. 人工呼吸器療法における安全対策マニュアル
5. 転倒・転落事故防止マニュアル
6. せん妄患者用リーフレット
7. 抑制(患者説明用紙)
8. 抗がん剤血管外漏出時の対応
9. 救急カートチェックリスト
10. 医療安全管理規定

b) 医療安全対策地域連携加算に関する活動

(医療安全対策加算 85点)

1-1 連携病院

(南岡山医療センター、落合病院、金田病院)

8/21 落合病院訪問 9/4 当院来院(落合病院)

1-2 連携病院

(岡山中央病院、赤磐医師会病院、金川病院)

8/18 岡山中央病院訪問 9/18 金川病院訪問

9/25 赤磐医師会病院訪問

c) 医療安全相互チェック(機構病院)

3/12 WEB 会議(東広島、岩国、呉、当院)

「ハイリスク薬について」

d) 研修企画

- ① 医療安全管理研修会: 必須研修
「岡山医療センターにおける転倒・転落の現状とその対策について」8月～11月(DVD研修)
(受講人数 1,008名、受講割合 80.3%)
- ② 10/28 森脇法律事務所中濱弁護士による勉強会「訴訟に負けない診療録とは」(109名)
- ③ 対象者別研修: KYT、MRI(53名)、
神経損傷(70名)、麻薬(62名)

e) インシデント集計・分析・改善策実施・共有化

f) 医療安全通信・安全情報による注意喚起・web

g) 広報誌(ザ・ジャーナル)への投稿掲載 4回/年

h) 多職種チームによる院内ラウンド

(転倒・転落防止)(救急カート)(抑制)

(抗がん剤暴露予防)

i) 洗濯物混入調査の実施 1回/月(全12回)

j) 病棟・部署ラウンドとラウンド結果報告

k) 転倒転落ラウンド

(看護記録チェック、環境チェック)

l) クレーム・小児虐待疑い等の対応

m) 「医療安全推進ジャーナル」の回覧・図書室配置

n) 医療安全推進月間:各部署取組実施と発表

2. インシデントレポートから改善できたこと

- ① 三方活栓つき延長チューブをロック式に変更
- ② テルモ点滴セットをゴム管のないものに変更(ラテックスアレルギー対応)
- ③ 無線バーコードリーダー導入
- ④ 5B(NICU)1ルートの点滴SET導入
- ⑤ 救急カート内の挿管チューブをスタイレット付きディスポ挿管チューブに変更
- ⑥ AED 全病棟配置

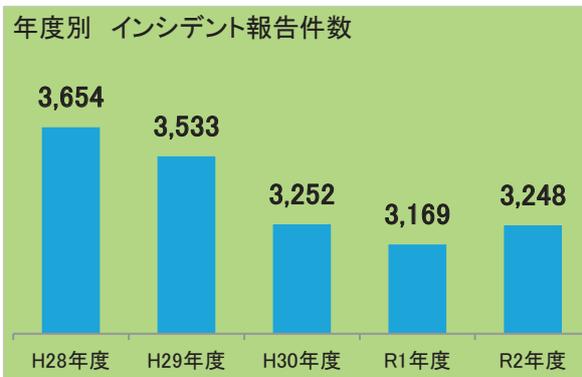
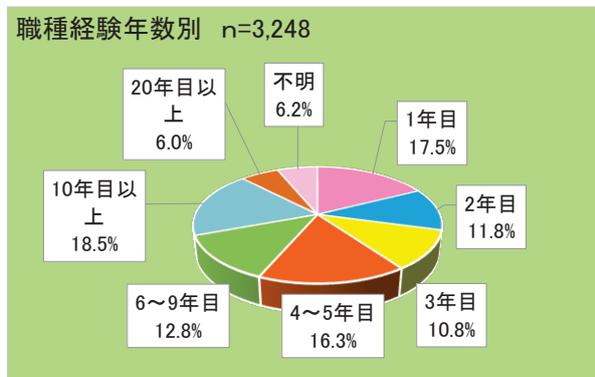
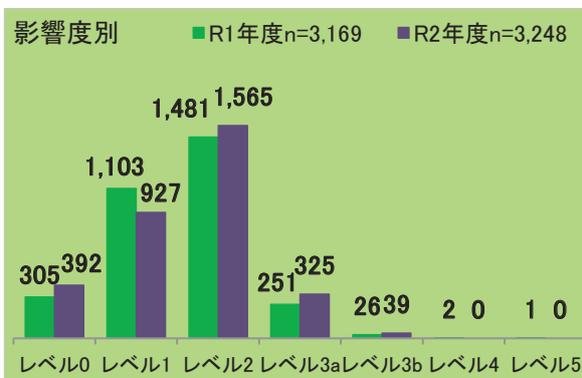
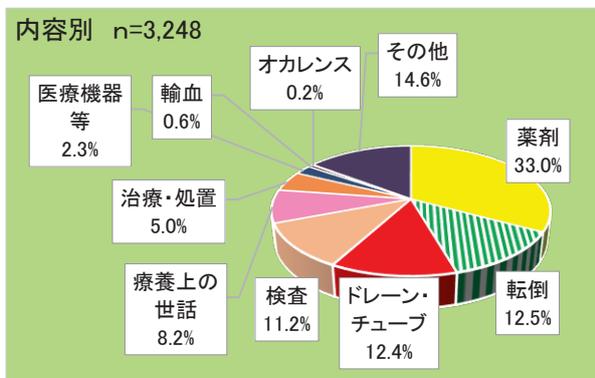
3. 業務改善

- ① スワブスティックへの変更
- ② e-ラーニング導入(セーフティプラス)

<令和2年度 転倒転落ラウンド件数>

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
40	36	36	16	20	24	20	29	21	24	33	39	338

<令和2年度インシデント報告状況>



<令和2年度 3b 以上アクシデントについて>



<令和2年度 インシデント”転倒転落”について>



●研究実績

1. 学会

- 1) Dialyzerの白色化と回路凝固を経験した一症例
大野 開成
第65回日本透析医学会学術集会

2020年11月2日

● 活動目的

- 1) 決定機関である院内感染対策委員会とその実働組織として院内感染対策チーム(ICT)の連携をよりスムーズに進め、迅速かつ柔軟に、データの集積、管理の一本化、院内感染対策防止の窓口として機能的に対処する。
- 2) 抗菌薬の選択、投与に関する診療支援を行い、抗菌薬適正使用を推進する。

● 活動状況

1. 教育活動

- 1) 院内講演会の開催(年2回)
 - 第1回「新型コロナウイルス感染症について」参加率:98.9%
 - 第2回「新型コロナウイルス感染症の治療について」「新型コロナウイルスワクチンについて」参加率:90.3%
- 2) 勉強会・講義等の開催、講師派遣
 - 勉強会:リンクナース、研修医、病棟看護師、医療クラーク、ボランティア等
 - 研修会:看護学校

2. 院内ラウンド

- 1) 抗菌薬適正使用に向けて使用状況の確認
 - ASTミーティングの実施
- 2) 感染対策実施状況の確認
 - マスクの適切な装着状況、ゴミの分別状況、針捨てボックスの使用状況の確認

3. アウトブレイクの防止

- 1) 新型コロナウイルス対策
 - 西4病棟における職員発生時のスクリーニング検査および環境整備・消毒
- 2) バンコマイシン耐性腸球菌(VIE/VRE)・カルバペネム耐性腸内細菌科細菌対策
 - 積極的サーベイランスおよび転院時スクリーニング検査の実施
 - カルバペネム耐性腸内細菌科細菌:7件(2019年度:11件)
 - バンコマイシン(中等度)耐性腸球菌:2件(2019年度:2件)
- 3) インフルエンザ
 - 職員および入院患者の発生はなかった。

4. サーベイランス

- 1) SSI サーベイランス(JANIS)

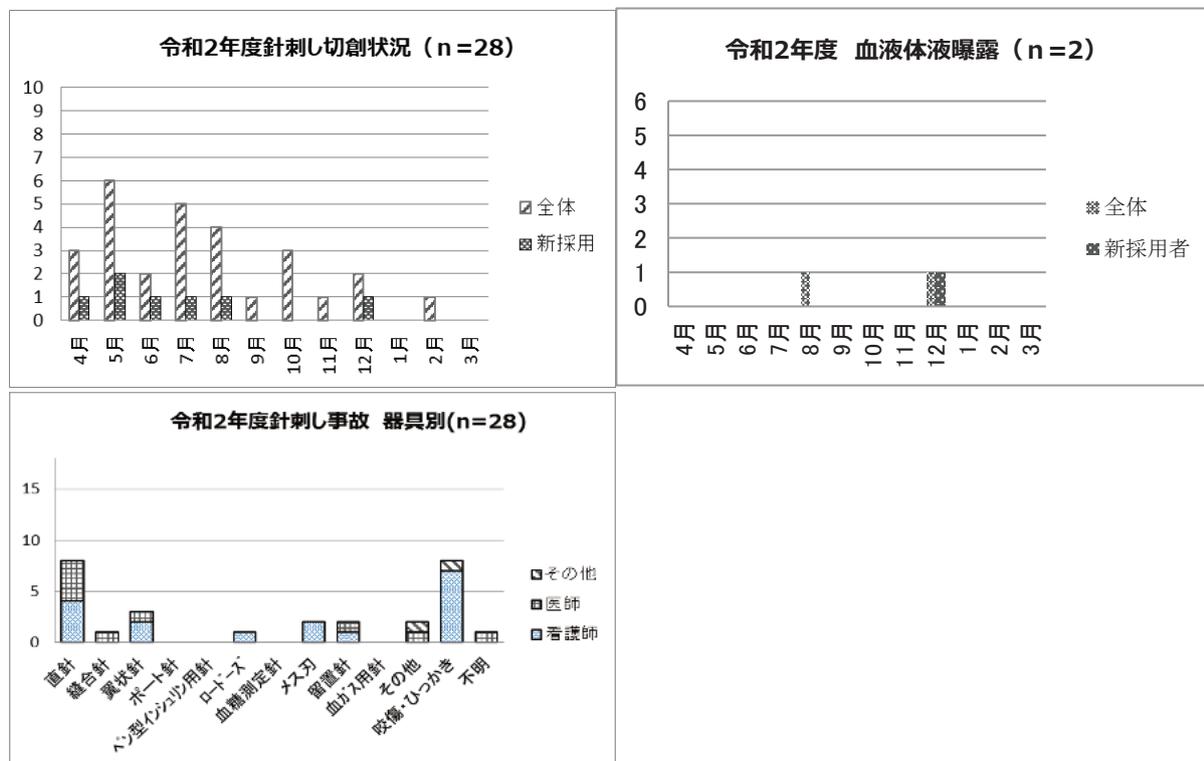
対象手術件数(2020/4/1～2021/3/31)

	RI:M	RI:0	RI:1	RI:2	RI:3
COLO	25	41	29	5	1
REC	3	19	6	3	1

感染率(%)

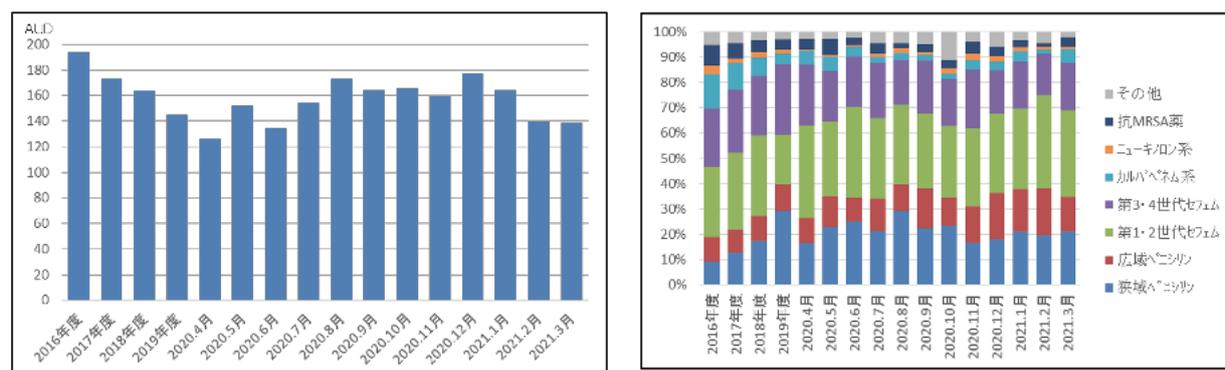
	RI:M	RI:0	RI:1	RI:2	RI:3
COLO	4	7.3	6.9	0	100
REC	0	0	0	0	0

2) 針刺し切創サーベイランスと皮膚粘膜汚染サーベイランス



5. 抗菌薬の適正使用

点滴抗菌薬平均 AUD(/1,000 患者日)と点滴抗菌薬比率の推移



6. 感染対策防止加算にかかる活動

(1) 感染対策防止加算 2 の連携施設(金川病院、済生会吉備病院、岡山中央病院、金田病院)と合同カンファレンスの実施

- 第 1 回 「新型コロナウイルス感染症への取り組み」 アンケート形式での情報交換
- 第 2 回 「新型コロナウイルス感染症への取り組み」 Web 形式
- 第 3 回 「新型コロナウイルス感染症への取り組み」 Web 形式
- 第 4 回 「抗菌薬の使用と耐性菌検出状況」 Web 形式

(2) 連携病院との相互訪問 (地域連携加算:年 1 回の相互訪問の実施)

9 月 7 日 岡山ろうさい病院と Web 会議

●活動目的

当院における前方、院内、後方医療連携の円滑かつ効果的な実施を推進することを目的とする。

●活動状況

1. 前方連携業務

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、地域医療連携室のタベが開催中止となった。地域連携医療機関への情報発信として FAX 通信やホームページへの情報掲載を行った。地域医療機関からの問い合わせはその都度電話対応で説明しご理解をいただいた。

- 1) 地域医療機関からの紹介の窓口業務(転院受け入れ・救急対応含む)
- 2) 新入院患者において病床管理との協働
- 3) セカンドオピニオン担当
- 4) 新型コロナウイルス感染症に対する院内感染防止策を地域医療機関へ発信
新型コロナウイルス感染症に関する問診票・体調管理等確認表の提出依頼、紹介患者が発熱等の症状がある場合は発熱外来のご案内
- 5) 地域医療機関との情報交換
(開放病床運営委員会、地域医療支援委員会、地域医療連携のタベの企画を含む)
- 6) 晴れやかネットによる情報開示
- 7) データ統計(紹介率、逆紹介率等)

2. 院内連携業務

- 1) 入院後3日以内に病棟看護師が行う「入院時退院計画リスクアセスメントスクリーニング票」に基づき、定期病棟ラウンドを行う。病棟カンファレンスに参加して情報共有を行い退院支援の進捗状況を確認する。
- 2) 社会福祉サービス手続きに関する情報提供
- 3) セミナー・講演会(地域医療研修セミナー等)による職員への啓発と情報提供

3. 後方連携業務

- 1) 退院における地域医療機関との調整
- 2) 社会福祉サービス手続きに関する情報提供
- 3) 地域連携パス(脳卒中、大腿骨頸部骨折、がん)の運用および他施設との情報交換
- 4) 院内外多職種連携事例検討会の開催(1回/年)
- 5) 退院調整に関する事例検討会(MSW・退院調整看護師 5回/年)
- 6) 退院支援専任者会議の運営
- 7) 電子カルテシステム更新に伴い医療福祉相談管理内容の検討
- 8) 退院支援運用システムの改訂の検討
- 9) MSW 新人教育プログラムの作成と運用
- 10) もも脳ネット運営の協力
- 11) がん相談支援センター運営会議への参画

4. 院外連携業務

1) ぼうさいやどかりおかやまへの協力

2020年6月10日「災害時医療的ケア児の発災初期入院応需」運用開始

岡山県医師会小児科部会・岡山県小児科医会

2) 岡山市北部合同連携デスクの運用 2020年度合同連携デスク会議は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる。現在は、岡山中央病院が連携窓口となり運用している。

3) 津高一宮ネット・みつネットへの参加 H25.1～継続し今年度はWEB会議で開催する(1回/月)

4) がん相談支援センター(専任):実務者会議(3回/年 岡山大学主催)

5) 2020年度 もも脳ネット:多職種連携強化のための研修会開催(2021年1月24日)

6) 開放病床運営委員会(2回/年)・地域医療支援委員会(4回/年)の開催

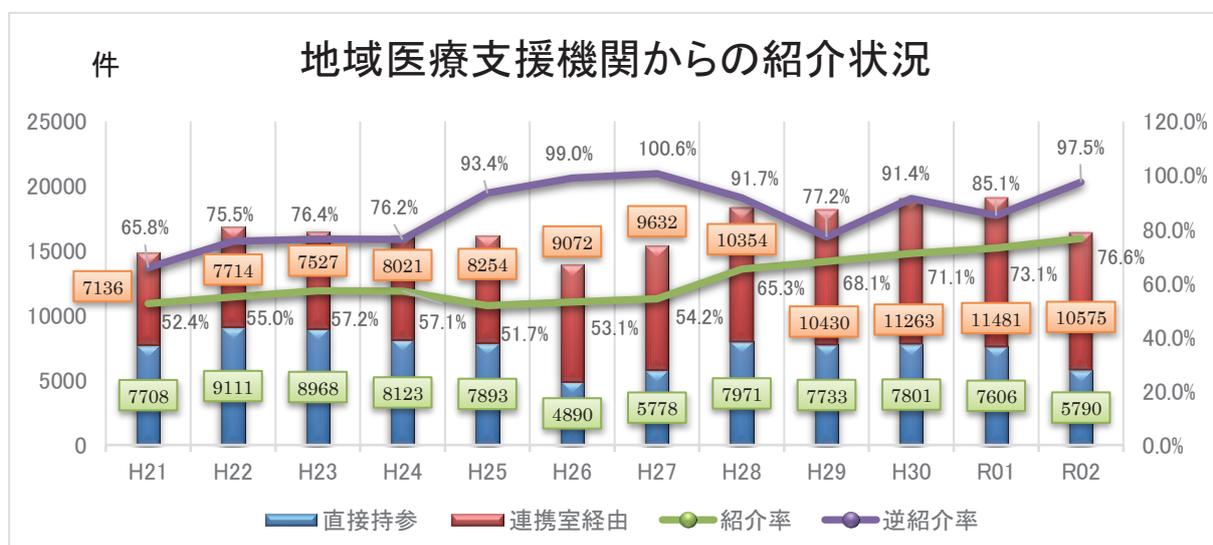
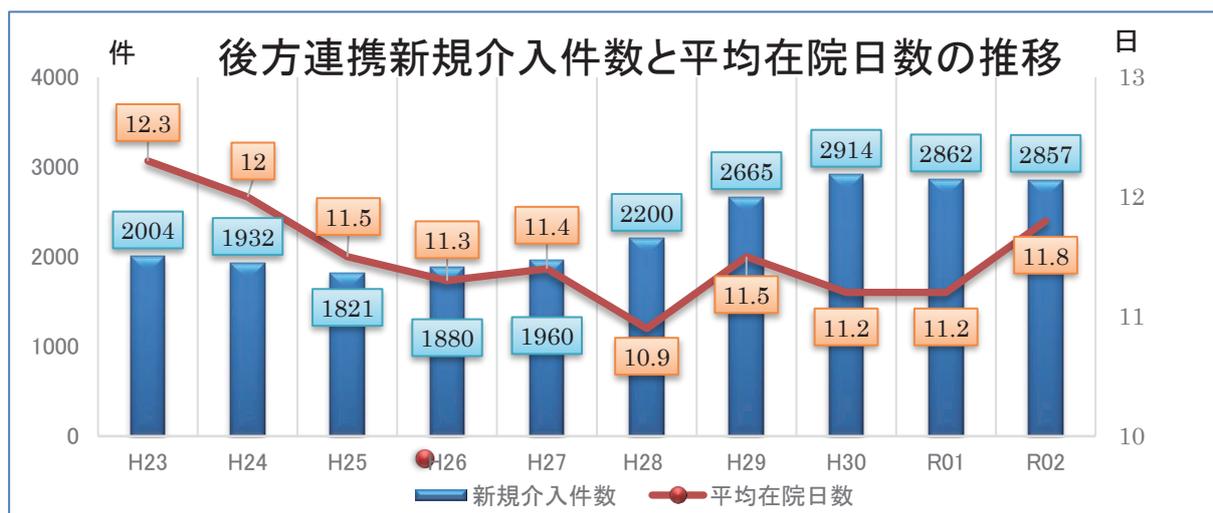
7) 地域医療研修セミナー等による職員の啓発と情報提供

8) 令和2年度岡山県小児訪問看護拡充事業への参画

9) 日本医療マネジメント学会岡山県支部事務局業務

① 日本医療マネジメント学会岡山県支部会則に基づいて運営

② (支部理事会開催、支部学術集会運営支援、本部との各種連絡・調整)



5. 研修会

- 1) 多職種事例検討会 (12月2日) 参加者:93名(院内89名、WEB参加で院外4名)



●研究業績等

1. 学会

- 1) 退院支援における業務見直しと質向上に向けた取り組み

森重 潤子

第74回国立病院総合医学会

2020年10月17日

2. 講演・講義

- 1) 医療的ケア児の在宅療養を支える看護職の役割と看護実践、看護連携実践報告

藤本 真理子

小児訪問看護研修会

2020年10月22日

- 2) 講義「継続看護の実際」

溝内 育子

岡山医療センター附属岡山看護助産学校2年生

2020年11月20日

3. 各種協議会

- 1) 訪問看護課題検討協議会(7月30日、12月3日、3月4日) 黒原 かおり
- 2) 岡山県がん診療連携協議会 (ZOOM 5月11日、9月7日、1月25日) 高瀬 陽子
- 3) がん相談支援ワーキンググループ会議(メールでの協議と情報共有) 高瀬 陽子
- 4) がん市民公開講座(8月31日) 高瀬 陽子
- 5) もも脳ネット コア会議 岩田 亜希子
- 6) 津高一宮ネット コア会議(Web会議 10月より再開し5回開催 溝内 育子、黒原 かおり)

4. 外部委員

- 1) 訪問看護課題検討協議会委員 黒原 かおり

5. 研修

- 1) がん相談支援センター相談員研修(12月16日)
黒原 かおり、神崎 早苗、森重 潤子、高瀬 陽子、岩田 亜希子、村上 朋子
- 2) 国立がん研究センター認定がん専門相談員 継続研修認定更新コース
高瀬 陽子(5月6日)、神崎 早苗(8月16日)、黒原 かおり(10月16日)
- 3) 中国地区地域フォーラム がん相談員のためのゲノム医療研修会
高瀬 陽子(8月22日)

- 4) 令和2年度中国四国グループ内入退院支援に関する実践能力向上研修
溝内 育子(9月15～18日)

● 活動目的

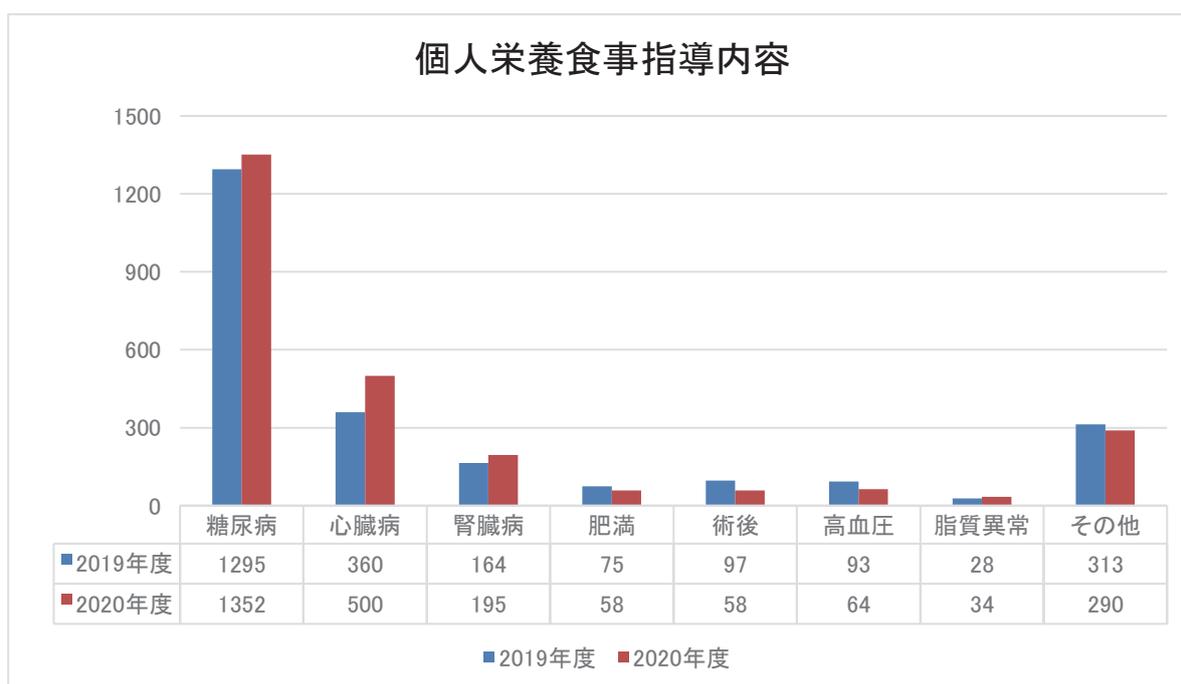
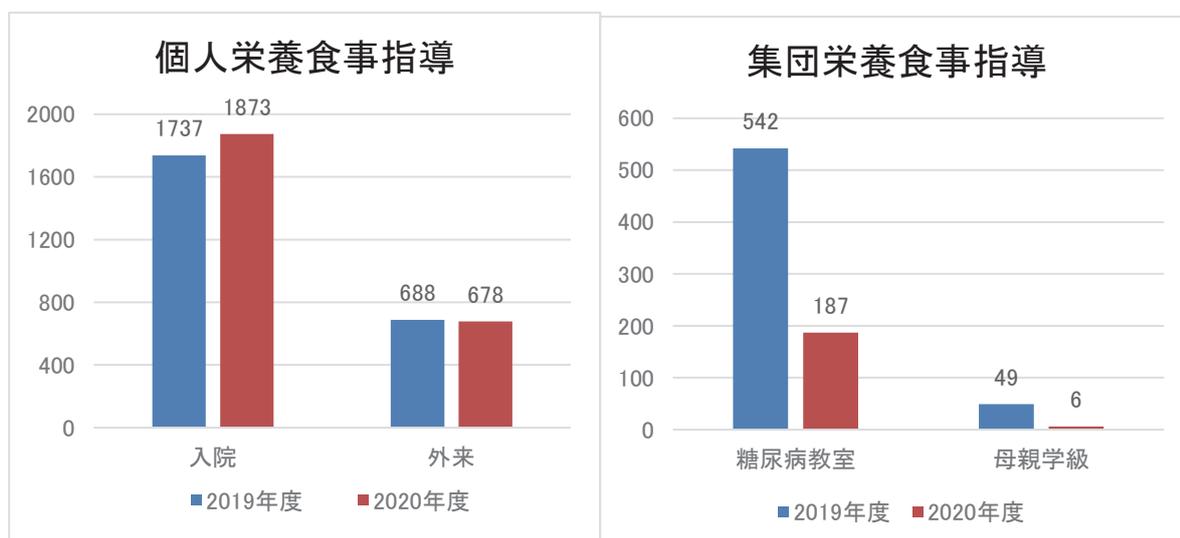
患者様に思いやりの心を持ち、安全でおいしい食事の提供をすることを目的として、平均1食400食を、管理栄養士7名、調理師4名、委託業者約40名で提供を行っている。また、患者個々の適切な栄養管理や栄養食事指導、病状に合わせた栄養療法の提案をしている。

● 活動状況

管理栄養士認定資格の取得者は、日本糖尿病療養指導士(1名)、がん病態栄養専門管理栄養士(1名)、NST専門療法士(2名)、人間ドッグ健康情報管理指導士(1名)、日本病態栄養専門師(1名)、心臓リハビリテーション指導士(1名)である。

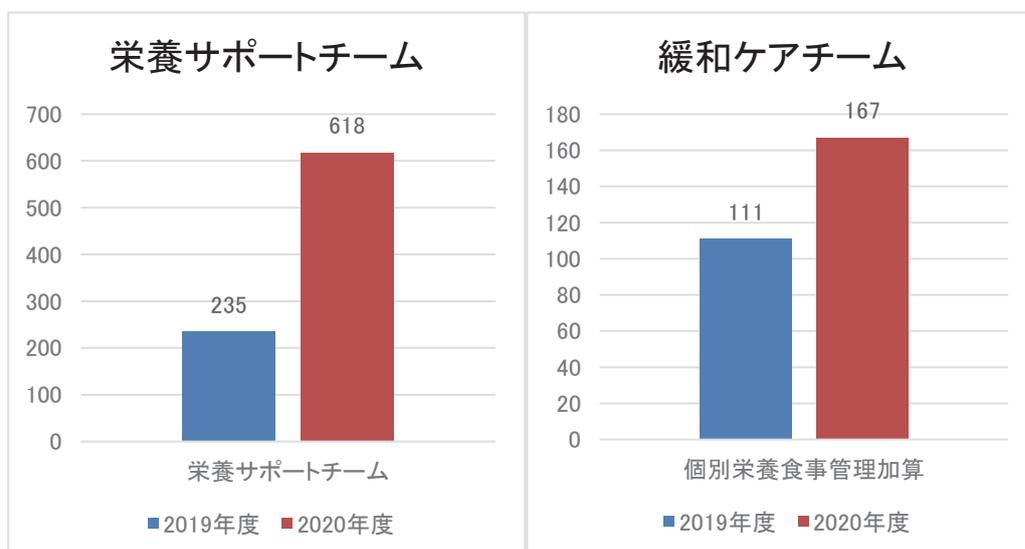
1. 栄養食事指導

入院・外来患者に対して、医師の指示に従い適切な栄養食事指導を実施している。



2. チーム医療

栄養サポートチーム(NST)、糖尿病チーム、緩和ケアチーム、褥瘡対策チームなどの各種チーム医療へ参加し、管理栄養士の専門性を活かして患者個々の病態に適した栄養療法を提案できるよう努めている。



2020年度より整形外科の脆弱性骨折に対する多角的治療・多職種協働チームと協同で介入件数増加につながった。

3. 外来心臓カテーテル検査 昼食弁当の提供

外来心臓カテーテル検査の際、希望者へ昼食を提供している。(1食 550円)

4. 病院体験食(糖尿食)の提供

食事療法について理解を深めて頂くため、糖尿病教育入院患者の家族を対象に、糖尿病食を提供している。(1食 680円)

5. 選択メニューの実施

入院患者への食事サービスとして、選択メニューを実施している。毎日昼食・夕食時に、普通食を提供している患者を対象に2種類のメニューより選んでいただいている。

(選択メニュー:1食 110円)

6. 特別メニューの実施(5月よりコロナ感染症予防のため中止)

入院患者への食事サービスとして、特別メニューを実施している。普通食だけでなく、塩分制限が必要な心臓病食、高血圧食の患者も対象に、『かるしお』な特別メニューの提供を実施している。

(特別メニュー:1食 550円)

7. サラダバイキングの実施(5月よりコロナ感染症予防のため中止)

入院患者への食事サービスとして、週1回該当病棟でバイキング形式のサラダ提供を行っている。

(1食 110円)

● 研究業績

1. 研修会、講演会

- 1) 目指そう、誤配膳ゼロ！Part.2～つけ間違い・つけ忘れを食い止めよう～
榎本 佑美
医療安全取り組み発表 2020年7月28日
- 2) 脆弱性骨折に対する多角的治療・多職種協働チームの活動について～NST～
榎本 佑美
整形外科院内勉強会 2021年2月8日

2. その他

広報誌(ザ・ジャーナル)

- 1) 健康レシピ「栄養満点！カラフル夏野菜で食卓を華やかに」
小山 壘
岡山医療センター ザ・ジャーナル Vol.15 No.1 2020年6月
- 2) 健康レシピ「秋の味覚で季節をあじわう♪4種のキノコと鮭のキッシュ」
小山 壘
岡山医療センター ザ・ジャーナル Vol.15 No.2 2020年9月
- 3) 健康レシピ「冬の味覚 旬の魚料理 たらのアクアパッツァ」
堀田 侑希
岡山医療センター ザ・ジャーナル Vol.15 No.3 2020年12月
- 4) 栄養管理室の紹介
小山 壘
岡山医療センター ザ・ジャーナル Vol.15 No.3 2020年12月
- 5) 健康レシピ「簡単レシピ いちごのレアチーズケーキ」
堀田 侑希
岡山医療センター ザ・ジャーナル Vol.15 No.4 2021年3月

● 活動目的

当院手術室の安全管理および手術業務の効率化と運営の円滑化を図る。

● 活動状況

1. 会議開催状況(2020年度)

手術室運営委員会 2020年7月28日, 2021年1月26日

手術室運営会議 2020年5月26日, 9月29日, 11月24日, 2021年3月23日

2. 活動内容

1) 体位固定による合併症の予防

体圧分散マットや多層性シリコンパッドの使用基準、皮膚神経予防マニュアルを作成し、多職種で情報共有を行った。また手術室運営室会議で検討し、診療科、麻酔科の協力を得て術中除圧を開始している。2020年度の表皮剥離、術後発赤ともに昨年度と比較し約50%程度減少している。

2) WHO安全チェックリストの導入

WHO安全チェックリストをもとに、チェックリストとチェックリスト使用手順を作成し、全診療科でタイムアウトの内容と方法を統一した。チェックリストを用いてタイムアウトを行い、手術前安全確認を継続して行っていく。

3) 災害シミュレーション

新型コロナウイルス感染症を視野に入れた大規模震災を想定し、災害シミュレーションを多職種で実施した。シミュレーションをもとに発生時に行うことをポスターにし掲示した。また、既存のフリーチャートを改訂し、災害時の備えとした。

4) 効率的な手術室運営

手術オーダー締め切り以降は手術枠をフリーとし、積極的な手術受け入れを行っている。麻酔科、各診療科の協力を得た、可能な限り日勤帯で手術を行えるように枠や列の調整を行っている。

5) 新型コロナウイルス感染症対策

帝王切開を受ける患者を想定した、多職種シミュレーションを行い、手術室感染対策マニュアルを作成した。

2020年度、新型コロナウイルス感染症疑似症患者の手術を3件行ったが、マニュアルに沿って行動し、大きな問題は発生しなかった。実践で出た意見を基にマニュアルの改訂を行い、今後の備えとした。また、衛生材料の備蓄状況を共有し、可能な手術では布ガウンを使用するなど協力を得て衛生材料の備蓄を行った。

● 活動目的

1. 当院の登録は二次救急であるが、現実には一次から三次救急まで対応している。それらに対応する院内救急部門(救急科)の診療を円滑に運営し、救急医療の質の向上を図ること。
2. 院内救急の充実を図ること
3. 岡山県災害拠点病院指定に伴う災害時の院内外医療体制の整備を図ること。

● 活動状況

主に以下の活動を行っている。

1. 救急運営対策室会議開催(不定期月 第4金曜日 2020年度は5回開催)
2. 年末年始、ゴールデンウィーク等の連休における救急外来の運営対策
3. 院内急変患者の診療状況の分析とそれに基づく院内救急の改善の検討
4. 救急車の物品点検(毎月第3金曜日)
5. 初期研修医対象院内 ICLS コース等の急変対応コースの開催・誘致
6. 対外的活動・定例会議出席
 - 1) 岡山県南東部メディカルコントロール協議会
 - 2) 岡山市救急業務連絡協議会
 - 3) 岡山県救急医療情報システム運営委員会
7. 救急救命士実習受け入れ(岡山市消防局1名)
8. 職員を対象とした心肺蘇生講習。とくに医師看護師以外への PUSH 講習会開催
9. その他、多角的視点からの院内救急改善の検討(COVID-19 関係は COVID-19 外来対策チームが担当)

2020年度の救急関連統計は救急車受入れ台数は、コロナ禍により、昨年度比637台減の、2878台であった。また、救急患者延べ数は14434名(前年度比5472名減)、緊急入院患者数は4391名(1291名減)、救急紹介患者数は2726名(607名減)と軒並み著減した。救急車応需率も87.5%と前年度の89.7%から低下した。これらはコロナ禍による西2、西4病棟のコロナ病床化、外来・入院患者の抑制、救急外来における発熱患者の隔離運用と隔離室数の限界、および隔離対応に伴う医師・看護職員の負担増に伴う受入れ困難患者の増加によるものと考えられる。

室における協議事項・実績として、1)新型コロナウイルス外来への監視カメラの設置 2)COVID-19感染が疑われる院外心停止患者に対する心肺蘇生アルゴリズムのCoMedixへの掲載と当院での運用についての周知 3)働き方改革にともなう、始業時間の再考 4)CPAバグの作成(院内心停止時に必要な物品をまとめたバグ:ビデオ喉頭鏡、カプノグラフィ、トーマスチューブホルダ、スワブスティックなど→院内CPA時に持参する) 4)各病棟へのAEDの配備 5)年末年始の発熱待合の拡張があげられる。

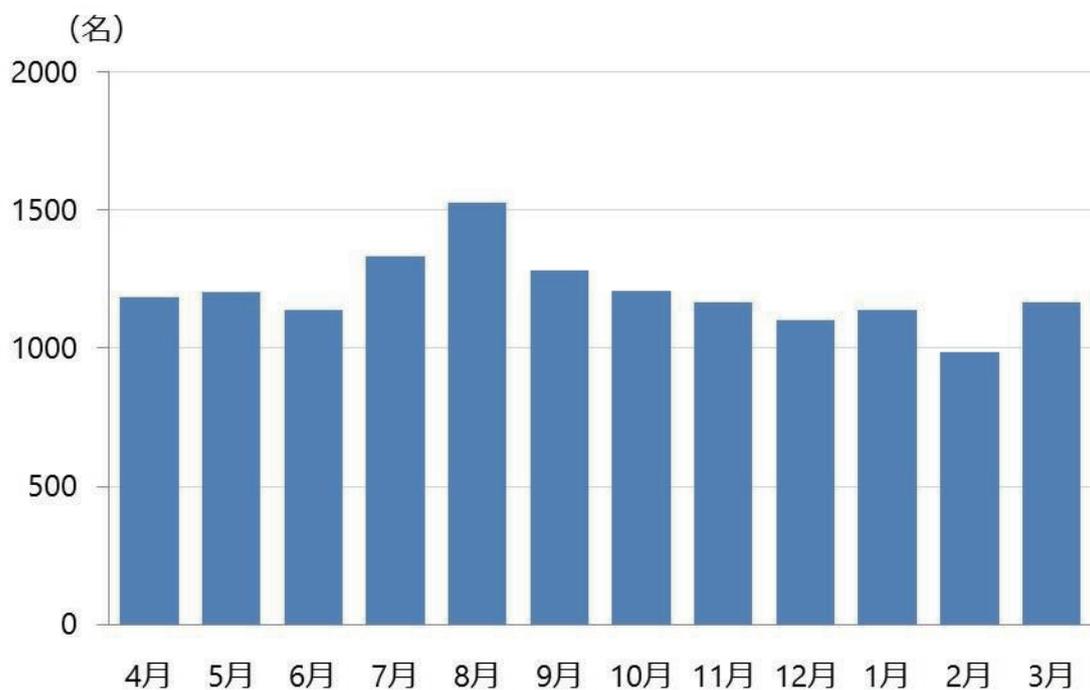
救命講習会についても、コロナ禍によりいわゆる「3密」の回避がうたわれる中、密接・密着を伴う救命講習会を積極的に行えない状況であった。例年開催している、放射線科技師に対する心肺蘇生講習も開催できなかったが、徐々に救命講習会における感染防護のノウハウが蓄積し始めたため、秋に職員に対するBLS講習(PUSH講習会)を外来スタッフに対して行った。

新型コロナウイルス感染症対応については院長直轄のCOVID-19外来対応チームで議論、決定されており、その内容について当室に報告があり、意見を提示した。

救急受診患者数・救急車搬入台数・ 緊急入院患者数



2020年度 月別救急患者数



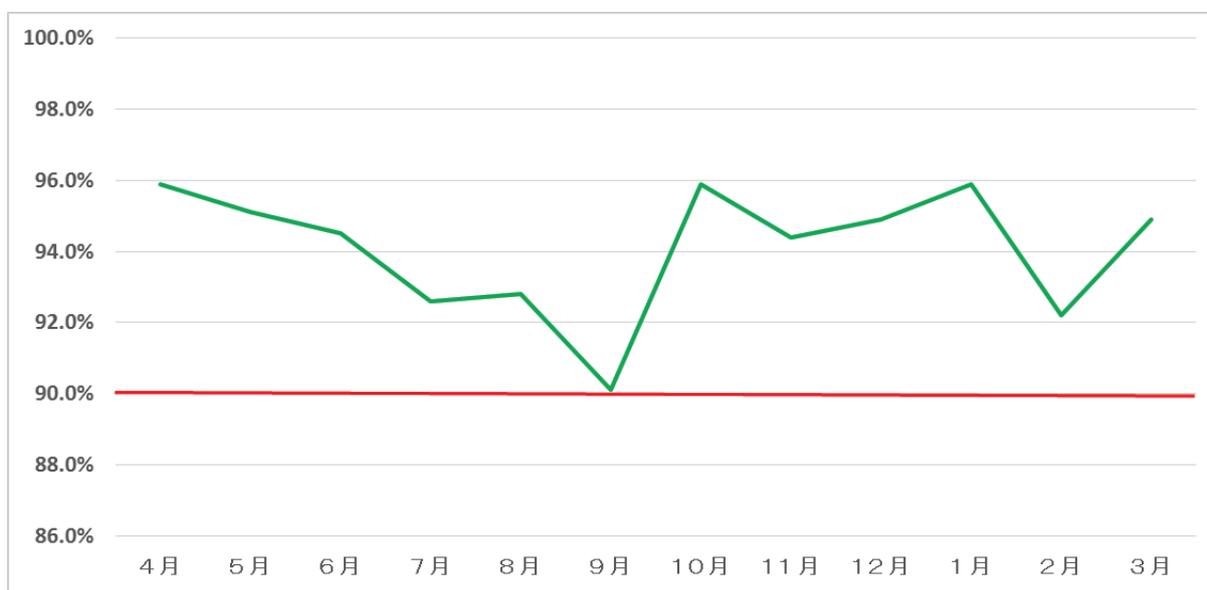
● 活動目的

1. 診療情報管理室は、診療録と関連した「診療情報管理委員会」とその傘下にある「説明と同意のための委員会」、「診療録等開示委員会」、「個人情報管理委員会」の開催を設定、準備、資料作成、議事録作成等を行う
2. 院内の文書管理システムの維持、管理を行う
3. 診療記録の適正な管理、運用を行う
4. 診療報酬請求が円滑に行なわれるように、職種間の連携を図る

● 活動状況

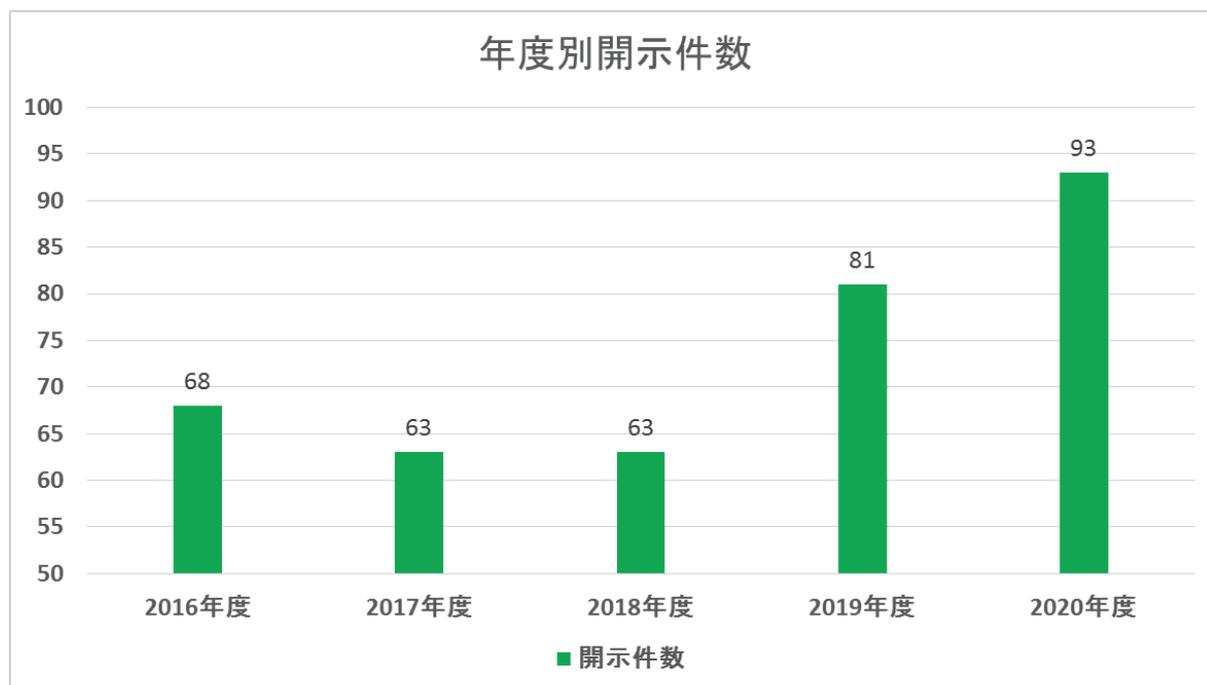
1. 月1回(年間11回)開催される診療情報管理委員会の議事録を作成し、CoMedixに掲載
2. 院内の文書管理の更新、新規作成
3. 転科時・退院時サマリシステム管理、認定医取得のためのサマリの出力援助、年報用粗データの提供
4. カルテ開示対応(2020年度・・・93件)
開示のPDF化
5. 入院診療録の監査、監査結果の集計、公開(CoMedixに掲載)

● サマリ完成率(2020年度度)



月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
完成率	95.9%	95.1%	94.5%	92.6%	92.8%	90.1%	95.9%	94.4%	94.9%	95.9%	92.2%	94.9%

●開示件数(過去5年分)



● 活動理念: ~その人らしく生きるための支援を目指す~

1. 患者, 家族が一日一日を有意義に過ごせるための時間と空間の提供
2. 多職種により, 家族を含めた包括的なチームケアを提供
3. QOL の維持向上が図れるよう力を注ぐ
4. あたりまえの医療・ケアとして普及するよう, 医療者の教育・啓発活動に取り組む
5. 緩和医療における地域連携の構築に努め, どのような場所でも緩和ケアが適切に提供される環境を整える

● 活動状況

1. 活動内容

- ・症状マネジメントのコンサルテーション
- ・院内オピオイド使用状況の把握と助言, 介入
- ・PCT 症例カンファレンス
- ・緩和ケア勉強会の企画
- ・緩和ケアの啓発活動
- ・帰宅あるいは緩和ケア病棟転院のリクルート

2. 2020 年度緩和ケアチーム活動実績

オピオイド回診

	2019	2020
回診回数	50 回	49 回
のべカンファレンス対象者数	1,297 人	1,169 人
1 回の回診におけるカンファレンス対象者数	25.9 人	23.9 人
1 回のカンファレンスにおける参加人数	18.6 人	20.2 人
1 回のカンファレンスにおける参加業種数	5-7	5-8
1 回のカンファレンスにおける参加診療科数	2-4 科	2-4 科

臓器別	のべカンファレンス対象者数		1 回の回診におけるカンファレンス対象者数	
	2019	2020	2019	2020
呼吸器がん	373	352	7.5	7.2
消化器癌がん	207	222	4.1	4.5
血液がん	369	241	7.4	4.9
頭頸部がん	118	45	2.4	0.9
泌尿器がん	51	70	1.0	1.4
乳腺・甲状腺がん	19	22	0.4	0.4
婦人科がん	11	82	0.2	1.7
原発不明・その他	71	22	1.5	0.4
非がん	119	113	2.5	2.3

緩和ケア回診

	2019	2020
回診対象者数	206 人	207 人
のべ回診回数	2,623 回	2,632 回
回診対象者 1 人におけるフォローアップ回数	12.7 回	12.7 回
緩和ケア診療加算 算定回数	1,229 回	1,431 回

3. 2020 年度緩和ケア対策室主催の研修会

年	月日	研修会名	題名・内容
2020	10/4	岡山県緩和ケア研修会	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会

4. がんサロン(ほのぼのサロン)

2020 年度は中止

● 研究業績

1. 学会

1) 岡山医療センターにおける「気持ちのつらさ」のスクリーニングと緩和ケアチーム介入の現状と課題

宮武和代、藤原慶一、岸口武寛、市由美子、田頭尚士、三嶋美穂、黒原かおり、高淵陽子、松尾敬子、熱田幸子、中西初実、池内克馬、宮下広大、

緩和・支持・心のケア合同学術大会2020、第 25 回日本緩和医療学会学術大会、

2020 年 8 月 9 日

● 活動目的

1. 入院患者に対する栄養リスクアセスメントを行い、低栄養患者の栄養改善および治療に、多職種編成チームで取り組む。
2. 職員に対して、栄養に関する意識向上を図るべく啓発活動を行う。

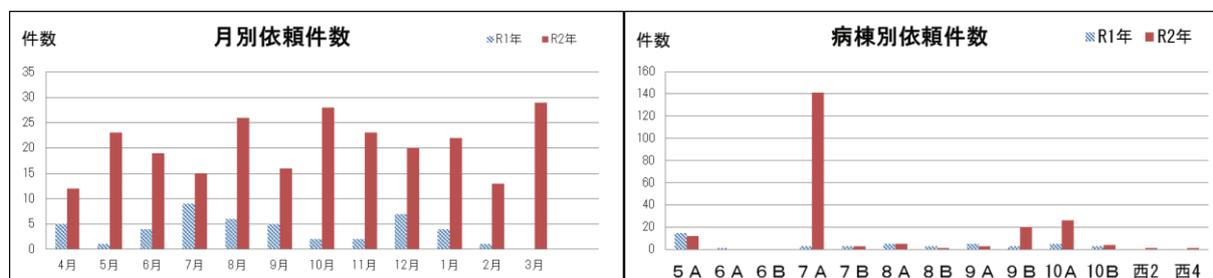
● 活動状況

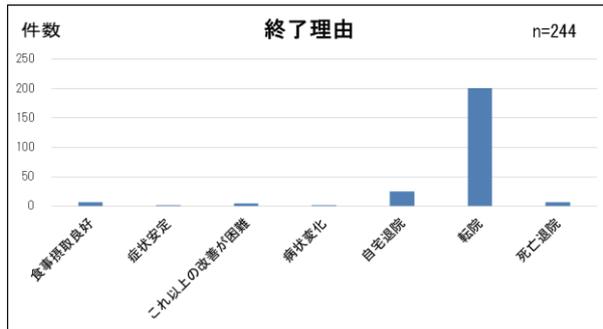
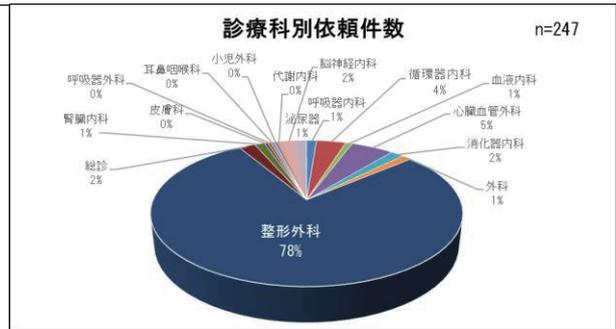
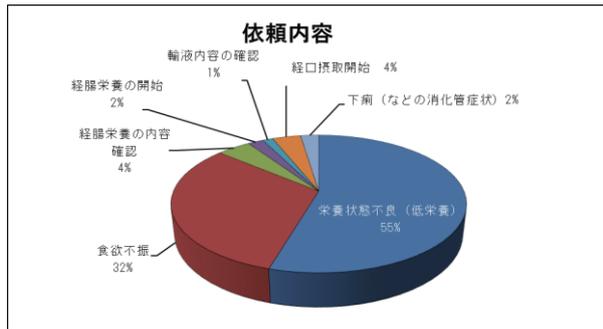
1. 全入院患者に対して栄養リスクアセスメントを行い、低栄養患者に関するコンサルト業務を行っている。
2. 毎週月曜日に NST カンファレンス、毎週金曜日に NST カンファレンス・回診を行い、主治医へ提言を行っている。
3. 奇数月の第 4 金曜日に NST 拡大ミーティングを行い、各病棟リンクナースとともに栄養管理に関する勉強会を行っている。
4. 毎月第 4 金曜日にお食事ラウンドを行い、摂食嚥下に問題がある患者に対し栄養経路や栄養状態を評価し、低栄養を予防している。

(2020 年度活動実績)

新規依頼件数:247 件、回診回数:50 回、延べ患者数:648 人、加算人数:621 人

月	回診数(回)	延べ患者数(人)	加算人数(人)	月	回診数(回)	延べ患者数(人)	加算人数(人)
4月	4	19	19	10月	5	80	70
5月	5	65	64	11月	4	60	55
6月	4	51	49	12月	4	62	56
7月	4	43	43	1月	4	56	56
8月	4	59	59	2月	4	45	45
9月	4	59	56	3月	4	49	49





(認定)

日本臨床栄養代謝学会 NST稼働認定施設
 日本栄養療法推進協議会 NST稼働認定施設

● 活動目的

院内各科で日常的に使用される医療機器を中央化し、保守・点検管理、効率の良い貸し出しを目的としています。

● 活動状況

医療機器管理室は、臨床工学技士10名で業務を行っています。業務内容は、臨床業務と機器管理業務があり、臨床業務としては、人工心肺・血液浄化・術中自己血回収・ペースメーカーなどがあります。最近の流れとしては、特に人工心肺業務、アブレーション業務が増加しております。機器管理業務は、人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・低圧持続吸引器・ベッドサイドモニター、フロートロン等の保守・点検・修理を行っています。医療機器管理台数は、1,873台となっています。

医療機器管理件数

医療機器貸出件数 8,412件

医療機器返却件数 8,365件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人工呼吸器	56	49	47	36	41	38	34	45	39	43	29	31	488
ネーザルハイフロー	8	3	7	4	4	4	3	2	8	3	7	6	59
輸液ポンプ	312	281	302	374	364	304	334	322	330	289	298	371	3881
シリンジポンプ	141	130	171	164	97	157	149	150	145	128	118	163	1713
低圧持続吸引器	73	60	60	52	57	67	51	53	49	39	41	56	658
ベッドサイドモニター	20	15	18	18	14	23	25	18	14	19	12	16	212
モニター送信機	0	0	2	1	3	0	3	1	0	1	0	5	16
パルスオキシメーター	1	1	2	8	3	0	2	2	3	2	0	0	24
DVT装置	84	64	82	115	103	112	80	83	86	48	98	92	1047
電子血圧計	2	1	4	1	1	1	1	1	1	2	0	3	18
透析室透析装置	8	9	8	8	7	8	4	5	5	3	5	11	81
血液浄化装置	6	6	8	6	6	6	6	6	6	6	6	10	78
除細動器	16	17	16	18	16	16	17	16	16	17	16	17	198
IABP	3	3	3	3	3	3	3	3	6	4	3	3	40
人工心肺	1	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	13
PCPS	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	3	3	37
保育器	23	24	20	28	21	21	23	25	25	24	14	26	274
AED	19	19	19	19	19	20	19	19	19	21	15	28	236
自動血圧計	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
経腸栄養ポンプ	3	4	3	4	1	5	6	5	6	6	5	5	53
PCAポンプ	3	6	6	6	1	8	3	6	3	1	7	5	55
麻酔器	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	5
電気メス	3	3	0	0	0	1	0	4	0	2	0	4	17
セントラルモニター	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	4
ネブライザー	1	0	2	1	0	2	1	1	3	3	0	1	15
合計	787	699	785	871	767	800	770	772	769	666	680	857	9223

臨床業務件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人工心肺	13	12	8	6	8	8	8	7	8	4	9	8	99
PCPS	0	0	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	6
PCPS回路交換	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3
術中自己血回収 心外	15	13	12	12	12	11	10	8	8	7	11	8	127
術中自己血回収 整形	15	8	8	6	8	12	14	10	18	10	8	10	127
CHDF	30	19	16	11	17	20	26	10	12	15	7	21	204
単純血漿交換	1	2	7	3	0	8	2	0	0	3	4	0	30
二重濾過血漿交換	0	0	0	0	1	6	0	2	0	5	0	2	16
免疫吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
エンドトキシン吸着	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
腹水濾過濃縮	1	2	1	0	0	3	1	1	4	2	1	2	18
末梢血幹細胞採取	2	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	0	7
GCAP	0	0	0	0	3	2	0	4	9	6	12	5	41
PM/ICDチェック	44	40	45	67	37	65	57	48	50	40	30	57	580
遠隔モニタリング	38	95	190	178	223	192	258	232	246	284	263	275	2474
PM植込み	4	1	6	4	3	1	1	2	4	4	3	2	35
PM交換	2	1	3	2	2	5	3	2	0	1	1	0	22
CRTP植込み	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
ICD植込み	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	4
ICD交換	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
SICD植込み	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
CRTD植込み	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	5
リード追加・再留置	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
ループレコーダー	0	2	0	2	0	0	1	0	0	2	1	0	8
アブレーション	7	6	8	9	10	11	12	11	11	7	8	7	107
EPS	4	3	1	3	0	2	0	0	0	2	0	1	16
USU	3	3	4	3	4	2	3	1	3	1	1	1	29
ロータブレーター	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	2	7
ダイヤモンドバック	0	0	0	2	0	0	0	0	1	0	0	1	4
ラジオ波焼灼	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4
マイクロ波焼灼	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
MEP	3	1	2	2	1	2	0	1	2	2	0	1	17
SNMチェック	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	1	6
合計	188	210	316	311	332	353	404	347	379	399	364	408	4011

教育・研修

4月8日	緊急輸血装置勉強会	10月14日	ヘモスフィア勉強会
5月21日	IABP勉強会	12月9日	アークティックサン勉強会
6月29日	CHDF勉強会	1月6日	人工呼吸器モナール勉強会
8月7日	SICD勉強会	1月15日	ラジオ波勉強会
9月1日	CARTO勉強会	1月20日	人工呼吸器VIVO45勉強会

● 研究業績

1. 学会

- 1) Dialyzerの白色化と回路凝固を経験した一症例

大野 開成

第65回日本透析医学会学術集会

2020年11月2日

2. 講演

1) 第2回岡山 CART 症例検討会

有安 祥訓

岡山医療センター

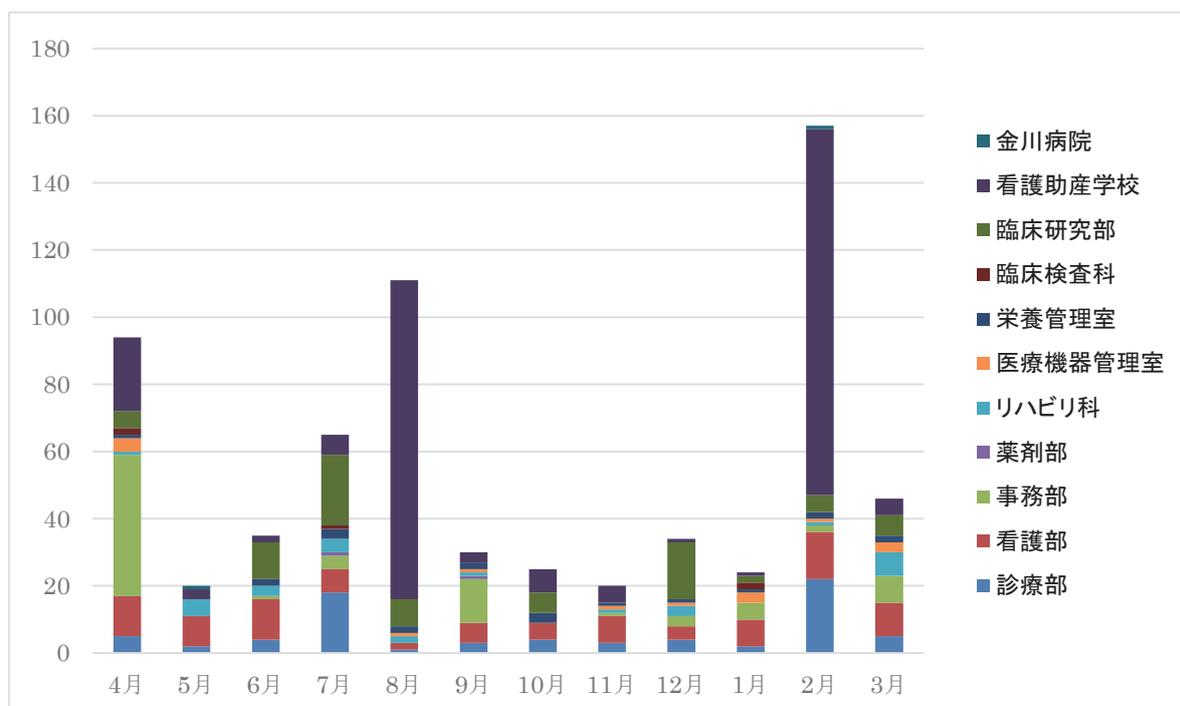
2020年12月4日

●活動目的

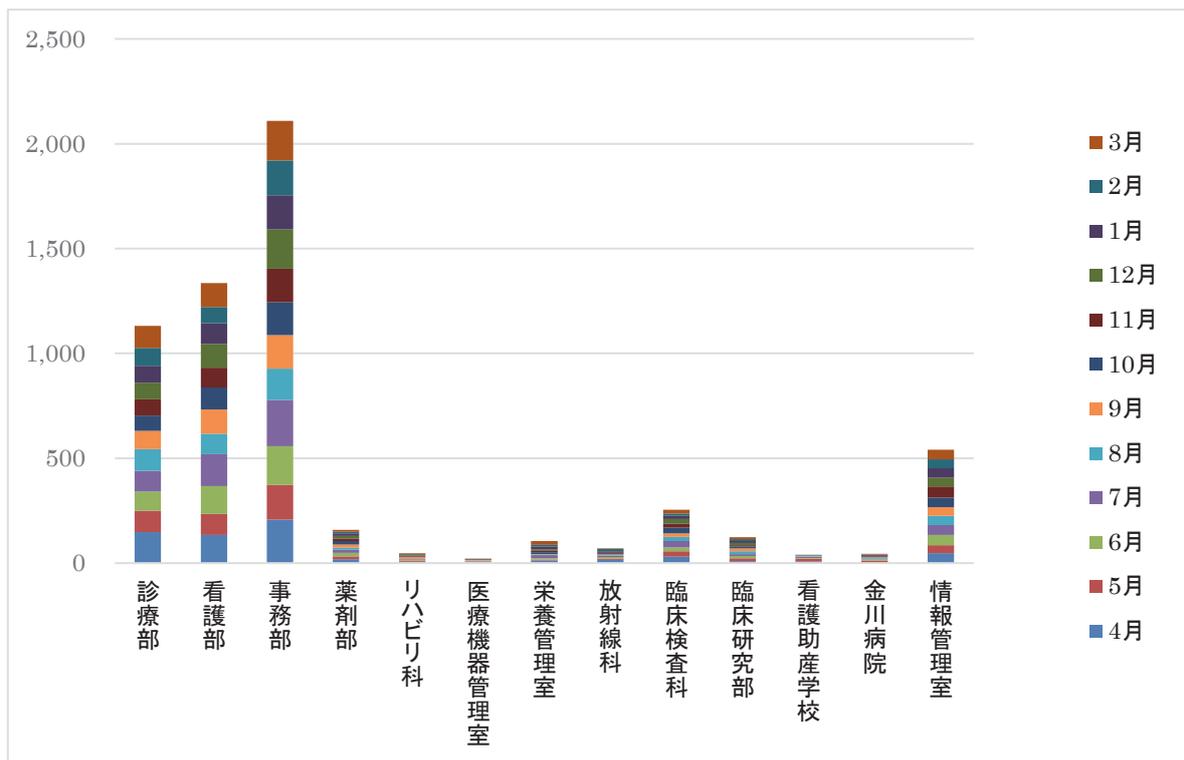
1. 病院情報システムの管理、システム開発に関する事項を適正かつ迅速に運営することを目的
2. 電子カルテの安定的運用、問題点の解決を行う

●活動状況

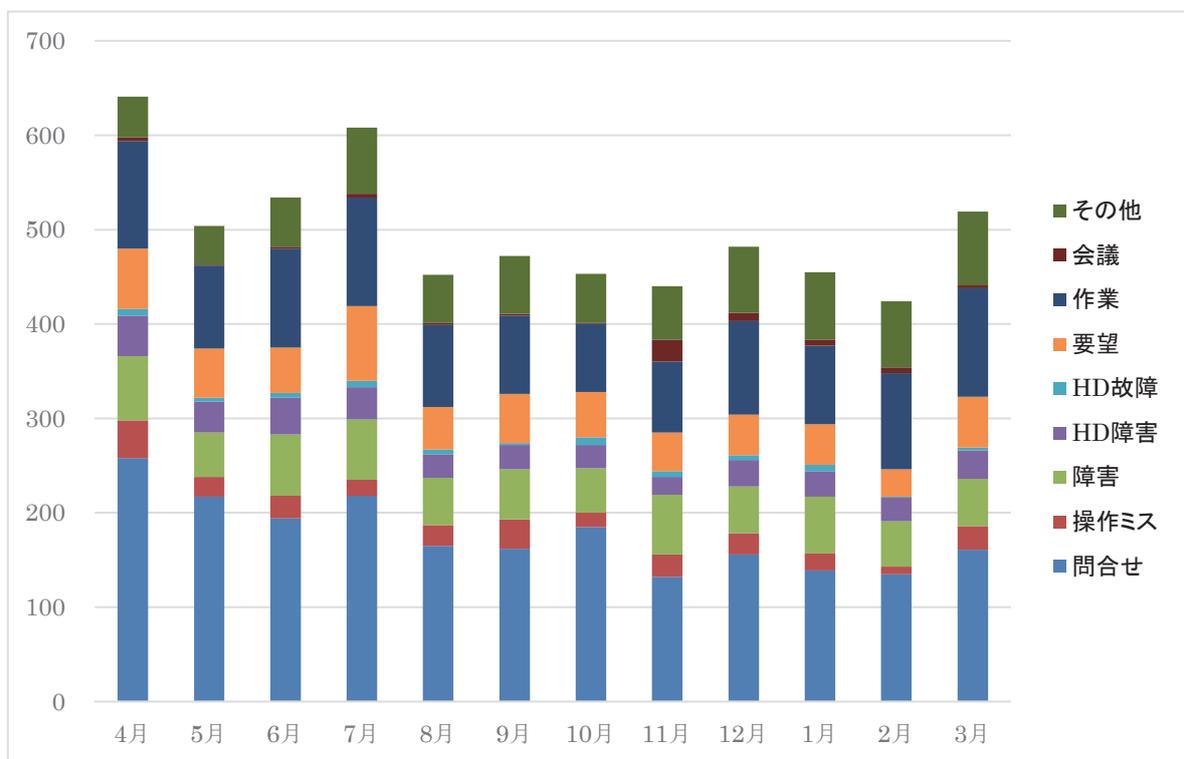
1. 定例会議(病院情報システム委員会)を月1回開催(年11回)
2. SSI 電子カルテ コアメンバーによる会議を隔月実施
3. SSI 電子カルテ操作研修を実施
4. サーバー定期再起動実施(3ヶ月に1回など)
5. 院内情報発信
新採用者、医療クランク研修などの電子診療録の取扱いについて講義実施
情報セキュリティー対策に関わる情報発信
6. システム障害発生時の対応
7. ウイルスチェックと発見履歴管理
8. CoMedix での申請・承認対応
9. 一般常用回路の電気設備保安点検における対応
10. Web 会議の環境整備
11. 次期病院情報システムデモンストレーションにおける準備
12. ウイルスセキュリティーソフトのアップデート対応



2020年度部門別セキュリティチェック数



2020 年度月別部門対応件数



2020 年度月別対応区分件数

● 活動目的

当院における図書の有効利用、職員への必要な医学情報の提供を行い、医療技術の維持向上を図ることを目的とする。

【活動内容】

1. 当センター図書室における資料の管理
2. 依頼に応じ職員へ複写文献を提供
3. 必要かつ適切な資料・ツール購入の検討
4. 適切かつ最新の医療情報提供
:【COVID-19】に係るオープンアクセス情報の発信等

● 活動状況

図書室運営室の活動

- ・定期購読資料・電子ツールの選定・受入管理
- ・図書室運営室会議の開催(年3~4回)など

図書室での活動

1. 室内資料と設備の管理
2. 書籍類の貸出返却業務
3. 職員への文献提供, 調査・外部依頼
4. 他院からの文献複写受付・発送
5. データベース・電子ツールの閲覧設定管理
6. 当院・医療関連新聞記事の保存・掲示

令和2/2020年度の実績
貸出(書籍類)

看護部	30
スーパーローテイト	18
地域医療連携室	9
眼科	3
皮膚科	2
小児科	1
その他	2
合計	65冊



外部機関への文献複写申込み件数(前年度比較)①

科	R2年度	H31/R1年度	H30年度	科	R2年度	H31/R1年度	H30年度
スーパーローテイト	-	34	11	小児科	16	32	15
血液内科	-	-	-	新生児科	3	10	2
総合診療科	-	1	-	外科	10	18	22
腎臓内科	70	135	43	整形外科	97	7	48
糖尿病・代謝内科	8	9	5	形成外科	4	3	10
神経内科	-	6	5	脳神経外科	-	-	18
呼吸器内科	-	2	6	呼吸器外科	-	2	1
消化器内科	43	95	20	心臓血管外科	2	7	6
循環器内科	-	1	11	小児外科	13	9	1

外部機関への文献複写申込み件数(前年度比較)②

科	R2年度	H31/R1年度	H30年度	科	R2年度	H31/R1年度	H30年度
皮膚科	4	3	-	救急科	-	-	-
泌尿器科	5	12	-	感染症内科	-	-	2
産婦人科	34	42	19	薬剤部	4	-	2
眼科	32	7	6	診療部	5	-	5
耳鼻咽喉科	-	-	2	手術室	-	7	4
放射線科	2	19	-	看護部	3	54	16
麻酔科	-	-	2	看護学校	-	-	2
臨床検査科	-	1	-	金川病院	1	-	1
リハビリテーション科	-	2	5	合計	360件	518	290

所蔵資料等 契約・受入状況

- ・ COVID-19 Clinical Resources (Ovid) の試用: 5~7月
- ・ データベース・電子ツールの閲覧箇所を院内全域へ拡張
- ・ 洋雑誌の電子化
- ・ PubMed【Link Resolver】Full Text 遷移機能を稼働
- ・ [医中誌Web]アクセス無制限プランの採用
- ・ オンライン蔵書検索URLを院内公開
- ・ 低利用率ジャンル購読中止
- ・ 雑誌145冊の寄贈受
- ・ 書籍46冊(+CDR1点)の寄贈受



その他

- 他院からの文献複写申込受付：15件

うち「岡山医療センター年報」複写依頼受付：6件

- 医療関係新聞記事の保存、掲示



医療関係の新聞記事は、一定期間、医局等に掲示後、院内文書ファイルに保存しています。

また、当院の関連記事の保存には、別ファイルを作成しています。

当日の山陽・朝日・読売新聞、週刊医学会新聞の閲覧も可能です。



令和3年度の目標

- 上記図書室活動の継続、充実
- 蔵書点検、書架整理（所蔵データ修正）
- 図書室へのニーズの掘り起こし

皆さまの必要な知識、情報を適切に提供すべく運営していきます。
皆さまのご意見をお聞かせ下さい。



●活動目的

国立病院機構岡山医療センターにおける医療広報(ホームページと広報誌「ザ・ジャーナル」)について具体的事項の立案計画を行い、適正かつ迅速に運営するため、活動している。

医療広報活動を通して

- ① 病院のことを知ってもらい、患者さんや紹介医への信頼につなげる
- ② 職員の帰属意識を高める
- ③ 職員の募集

などを期待している。

●活動状況

室会議においてはメンバーから担当領域の広報に関する報告を受け、決定を行っている。また、企画を立案し、それを実行するための行動を確認している。

患者さんのために真剣に仕事に取り組んでいる姿を見てもらい、当院の理念である「今、あなたに、信頼される病院」であろうとしているところを読者に感じてもらえる内容となるよう意識し作成に取り組んでいる。

医療広報推進室会議の開催

第1週、木曜日、16:30～(通常1時間)

(必要な場合は随時、臨時室会議を招集・開催)

●活動実績

1. ホームページについて

- ・記事の改訂、新着情報の掲載を随時行っており、常に最新の記事が閲覧できるように努めている。必要であれば関係者へ連絡。返信されたデータは業者を通して改訂している。
- ・安全管理のため国立病院機構共通のWEBシステムに移行となり、ホームページの更新手続きが煩雑化している。進行状況管理のためタスク管理表を作成した。
- ・新型コロナウイルスに関する情報については目立つような大きなバナーを作成した
- ・新着情報、トピックスの分量を調整し情報の新鮮さが伝わるよう意識した
- ・院内の写真を撮影し更新した。



メインページの写真追加



新型コロナウイルス関連情報



手術室内の写真追加

2. 広報誌ザ・ジャーナルについて

- ・年に4回発行している。
- ・室会議においてはまず、特集記事、定期掲載記事などの確認し室員内で役割を分担している。その後、タイムスケジュール表を作成し担当者が責任を持って原稿を集めている。最後に校正、発行の流れで進めている。
- ・広報誌ザ・ジャーナルに掲載された記事はできるだけホームページへも載せるようしている。
- ・2020年度発行分より、かかりつけ医の先生の紹介ページを新設した。



2020年6月発行



2020年9月発行



2020年12月発行



2021年3月発行

3. その他

- ・新規ホームページプロジェクトチームを結成した。スマホ対応など最近の需要に沿った改訂を行うべく準備を進めている。

● 活動目的

患者サービス推進室は 2007 年に患者サービスの一環として設立されました。活動目的は当院の患者サービスの現状の把握、問題点・改善方策の検討です。具体的には、

- ① “ご意見箱”を各病棟のダイニングルーム、外来総合案内に設置し、定期的に室員が回収
- ② “ご意見箱”に記載されている「皆様の声」の内容を吟味し、緊急度を判断しながら(至急対応の要するものはその都度各部署へ対応依頼)、毎月第 3 もしくは第 4 木曜日に開催の「患者サービス向上推進対策会議」で内容を検討
- ③ 病院としての対応が必要なものは“幹部会議”に患者の要望と検討内容を報告・提出の 3 点です。

また、入院患者さんにアンケート調査(記名/無記名は不問)を実施し、患者さんからの“生の声”に接しながら、指摘された問題点等を検討し、対策等を立案しています。

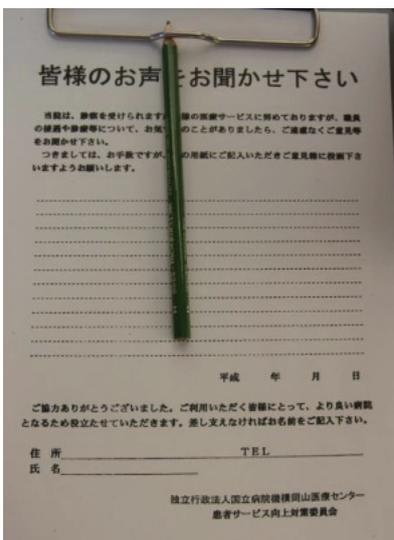
● 活動内容の詳細



“ご意見箱”を各外来ブースや病棟に設置



“アンケート回収ボックス”は病棟に設置



各“ご意見箱”の傍りに配備

入院患者さまへのアンケート みなさまのご意見をもとに、当院のサービスを改善いたします。ぜひ、アンケートにご協力下さい。

◎ 主に職員の方にお聞きいたします。退院時に各病棟または 2 階総合案内の意見箱にご投入下さい。

1. アンケートにご回答いただく方についてお答えください。

年齢	性別	患者さまとの関係	患者さまご本人	ご親類	その他
			1	2	3

2. 今回患者さまが入院された病棟はどちらですか。

5A・5B・6A・6B・7A・7B・8A・8B・9A・9B・10A・10B・西2・西4・西5

3. 各職員の対応はどうか。

	良	い	ふつう	悪	い	わからない
医師	1	2	3	4		
看護師	1	2	3	4		
検査技師	1	2	3	4		
放射線技師	1	2	3	4		
薬剤師	1	2	3	4		
理学療法士	1	2	3	4		
栄養士	1	2	3	4		
事務職員	1	2	3	4		
病棟助手	1	2	3	4		
掃除	1	2	3	4		

4. 今回の入院治療は、ご満足いただけましたでしょうか。

おおいに満足	満足	満足できなかった
1	2	3

ご協力ありがとうございました。退院時に各病棟または 2 階総合案内の意見箱にご投入下さい。

岡山医療センター-患者サービス推進室

入院時に配布

● 活動状況

毎月第2水曜日の午後4時から、事前に回収した「皆様の声」について、メンバー全員で内容を分析し、改善に向けて検討を行っています(室員は19名)。

- ① 病棟のものは病棟師長、外来のものは医事専門職が回収。回収された投書用紙は、副看護部長室に一旦集められ、副看護部長が内容を適宜検討。
- ② 急ぐ案件については、対応部署の責任者にその都度連絡。対応部署の判断が難しい時は、副院長に連絡し対応を検討。
- ③ 急がない案件については、毎月の定例会議(第2水曜日の午後4時より)で内容等を検討。
- ④ ご意見箱”のご意見への返事は、必要に応じて専門職を中心に作成し、2Fの専用掲示板に掲示。更に、“ご意見箱”で述べられた我々職員に対する問題点・注意点は、適宜院内情報用Webに載せ、職員の接遇の改善を企図。
- ⑤ 入院患者アンケートを実施。指摘された問題点を検討し対策を立案。
- ⑥ その他、患者サービスにつながる事案を逐次対応し、必要に応じて院内ラウンドや院外の視察等の実施。

● 調査結果【令和2年度ご意見箱に寄せられた代表的なご意見】

- ① 医師に関するご意見 診察時の接遇などへのクレーム ……物言い、名前を間違えて言う、イライラしてキーボードをたたく、コロナ下なのでちゃんとマスクをしてほしい、など
- ② 病棟におけるご意見 看護師の接遇などへのクレーム ……名札が裏向きになっている、名前を名乗らない愛想がない、次の説明があるか、待ち時間がどれくらいかなど連絡間違がある、スタッフによって対応の差がある、忙しくてイライラした対応をされる、言いつばなし、聞きっぱなしで不快だった、返事がなく感じが悪い、名前を間違えられても謝罪がなかった、など
- ③ 外来受診時におけるご意見 受付の接遇などへのクレーム ……そっけない、態度が横柄、売店レジ前で大声で話している、など 待ち時間などへのクレーム ……待ち時間が長すぎる、手際が悪いのか人が少ないのか受付で時間がかかる、など
- ④ 事務に対するご意見 掃除に関するクレーム ……掃除が不十分、トイレの汚物入れが汚れている、外来者用自転車置き場の掃除をしてほしい、など 駐車場に関するクレーム ……駐車場の白線が薄くなっているので駐車に困る、など 設備やサービスに関するクレーム ……洋式トイレに蓋をしてほしい、待合椅子などソーシャルディスタンスを取れるようにしてほしい、2階血圧計傍にも荷物置きを設置してほしい、シャワー室にシャンプーを置く台を付けてほしい、など 窓口等における接遇に関するクレーム ……朝の受付の誘導時に声を出してしてほしい、自動精算機の金額読み上げを止めてほしい、退院時精算後、病棟の階まで支払証明を持参することが大変、など

【対応について】

- ① 接遇については、研修や職場長による指導などを通じ、接遇向上へより一層力を入れていく所存です。
- ② 待ち時間について、朝の職員配置の見直しや、業務手順の見直し、採血での受付番号の自動発券機の導入など改善を図っているところです。今後も待ち時間が短縮されるよう方策を検

討してまいります。

- ③ 掃除について、院内感染対策にも配慮しながら、適宜、病院職員と委託事業者と協力しながら清掃できるよう徹底してまいります。
- ④ 駐車場について、状況を鑑みながら修繕を図っていく予定です。
- ⑤ 設備やサービスについて、対策を検討し、医療安全対策や院内感染対策に配慮しながら出来ることは対応してまいります。

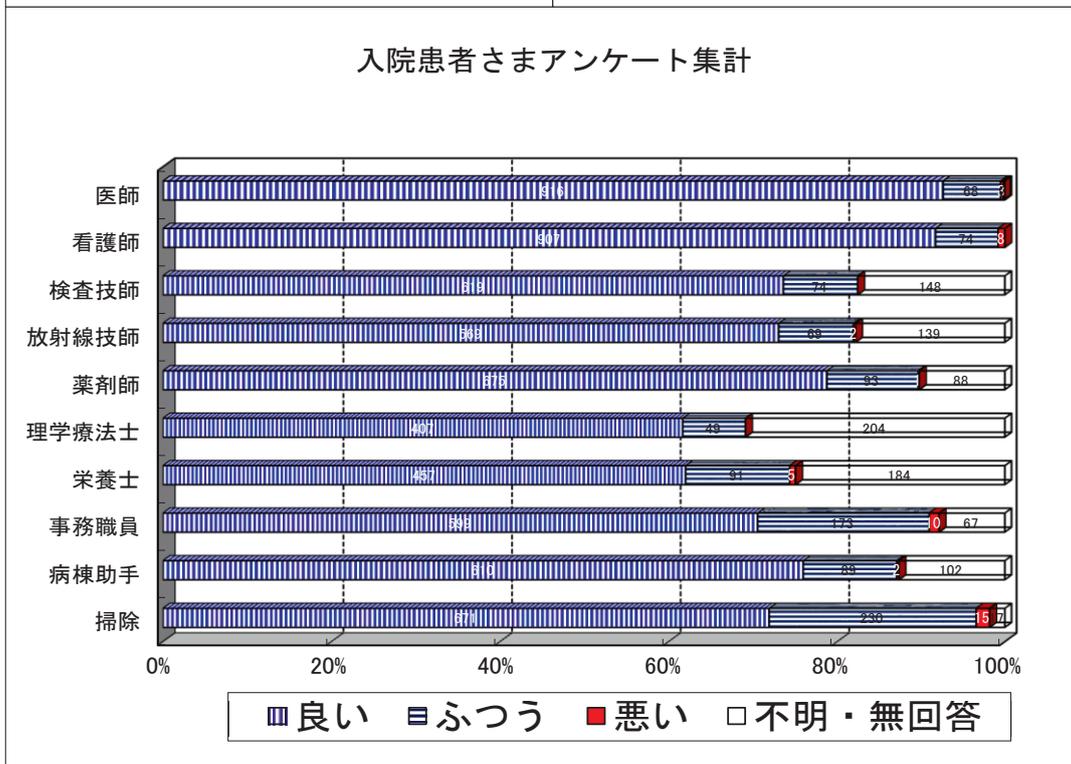
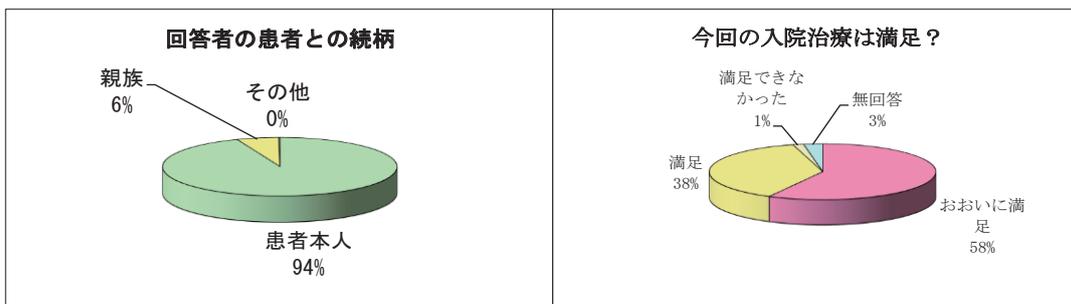
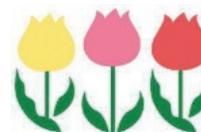
入院患者さまへのアンケート集計

患者サービス推進室

対象期間 R02.04.01 ~ R03.03.31

総回収数 992 枚（期間中退院患者数 14,131 人、回収率 7.0 %）

回答者 平均年齢 58.74 歳



● 活動目的

環境整備室は、国立病院機構岡山医療センターの院内・敷地内のあらゆる環境の整備を推進することを目的に2007年に設立された。2019年度より活動休止していたが、院内の環境を職種横断的に改善していくために、2020年中期より再度活動することになった。

【これまでの活動】

- ① 院内環境の継続的な点検及び把握
- ② 院内環境の問題点及び改善方策の検討ならびに院内環境整備の企画立案
- ③ 上記項目にかかる院長への報告
- ④ 病院環境に関する院長の個別指示事項の実施
- ⑤ 上記項目に付随する事務処理
- ⑥ その他院内環境に関係する病院全体としての企画や行事の協力・参加等

● 令和2年度の活動

・再活動後の環境整備室初回会議

日時 令和2年8月7日(金) 16時00分～

場所 研修室6.7

【決定事項】

1) イベント関連に関しては、COVID-19感染拡大に伴い基本的に中止とした

1 病院フェスタ…中止

2 病院忘年会…中止

新人歓迎の代替イベントも、年度内に開催困難と判断し、次年度へ繰越

2) 院内環境関連(院長からの指示を伝達)

1 本館1階のウッドデッキ撤去後の広場の活用

2 院内掲示物の統一化

- ・ 8月19日: 主要メンバーで外来を中心に院内ラウンド。ポスター掲示の状況を調査。
- ・ 8月25日: 管理診療会議で、環境整備室活動再開のアナウンス。院内の不要な掲示物を撤去する方針と、今後の掲示方法に関しては統一的なフォーマットを導入することを説明。一週間の猶予期間を起し、9月3日に撤去することとした。

9月3日(木)院内ラウンドを行い、掲示物を撤去

	担当エリア	担当者		
1班	1階	太田(副統括)	榎本(栄養)	
2班	2階 外来	上本(看護)	香川(看護)	岡村(事務)
3班	2階 放科、救外	山口(放)	山内(事務)	
4班	3階 外来	井澤(看護)	大東(看護)	田中(事務)
5班	3階 検査、臨研	塩田(検査)	平良(検査)	

本館2F 外来待合ホール

Before



After



Before



After





国際医療協力室のロゴマーク

● 活動目的

『外国人にやさしい病院』を目指して

- 1) 当院では 2005 年 4 月に国際医療協力室が発足した。(臼井外科医長)
- 2) その間、医療通訳をはじめとする外国人診療体制の整備をいろいろと行なってきた。
- 3) 2006 年から 6 年間は厚生労働省国際医療研究を行なった(3 研究)。
 1. (18 指1)ネットワーク機関における外国人診療のあり方に関する研究
 2. (18 公6)胎児から乳幼児に子育てを軸とした継続ケアの構築
 3. (21 指9)海外渡航者及び帰国者のための効果的な診療体制整備に関する研究－(分担)在日外国人・日本への外国人渡航者の診療体制の構築
- 4) それらをもとにして、2012 年外国人診療の10箇条をまとめた。外国人診療に対する基本的な姿勢を述べている。2013 年改訂。
- 5) 当院でできる海外医療協力を推進している。

● 活動状況

- 1) 海外医療協力(2020 年度はコロナ禍のため実活動はほとんどない)
NPO 中国四国小児外科医療支援機構(本部:岡山医療センター)による活動
ミャンマー等手術ミッション 年に1~2回で平成 23 年 1 月より継続している
当院の医師、看護師が毎回参加している。
海外医療機関からの見学・研修の調整・世話など
外国人医師臨床修練指導医(中村)
- 2) 当院の外国人診療システム充実のための活動
- 3) 外国人診療の手助け、助言
診療に必要な書類掲示物の英訳・助言など適宜行っている。

岡山医療センターの外国人診療

- 患者の家族・知人による通訳
上記がない時は地域連携室・国際医療協力室に連絡
- 多言語医学情報ツールの活用
16カ国対応診療補助表など
- 医療通訳の確保
英語は院内
その他の言語は院外から
岡山国際交流センター 中国語・ポルトガル語など



2019 カンボジア国研修にて

● 業績

【2020 活動】

1. 2021 年 5 月 19 日 循環器内科留学中の Dr.Fayez Khalid S. AlAhmadi による English Conference (座長 小川愛子先生)
2. 急患時のオンライン通訳導入に向けた検討(和田・中村)

● 外国人診療の手助けに、16か国語診療補助表というのが、以前より、救急外来、地域連携室に用意しています。2016 年 10 月に、COMEDIX の国際医療協力室のところにアップしました。該当の国の部分をコピーしてお使いください。

● 日本語のわからない外国人への対応図です。

日本語のわからない外国人への対応

外国人来院
医事科



通訳が必要な外国人



16 か国語診療補助表・機械翻訳などの活用

CoMedixの委員会・WG一覧の国際医療協力室にある。

(必要な外国語をコピーする)

医事用、担当科医師用、患者用で 1 セット。

それでも通訳が必要な場合は下記に電話



国際医療協力室

室長 中村 信((8844) 副室長 秋山一郎(8512)

医事専門職、和田吉弘(8303)



英語:小川愛子(8125) , ドイツ語:市川孝治(8589)

その他の言語は、すぐには無理です。

(2021 年 3 月 国際医療協力室)

●活動目的

特定分野の知識及び技術を深め、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践を行い、組織横断的に看護ケアの質の向上に資することを目的とする。

●活動目標

1. 看護の専門分野の知識・技術を活用し直接的ケアを通して看護ケアに貢献する。
2. 看護部教育委員会と連携し、院内教育を支援する。
3. リソースナース室活動を院内にアピールし新たな後輩を育成する。
4. リソースナース室活動を院外へ広報誌、地域医療連携につなげる。

●活動状況

1. リソースナース室会議 1回/月開催

リソースナース室活動目的・目標に沿ったグループ活動

2. 研修会、講演会の企画・開催

- 1) 院内活動

- (1) 看護の質向上グループ

クリニカルリーダー・教育体制の再構築 WG と協働し、令和 3 年度看護部院内教育プログラムの一部として、エキスパートナースコース研修プログラムを検討した。次年度から、「がん看護(緩和ケア・がん薬物療法・がん放射線療法)」「感染管理」「糖尿病看護」「皮膚・排泄ケア」の 4 分野のエキスパートナースコースを開講することとなり、研修計画案を作成した。

- (2) 広報グループ

- ① リソースナース室活動を院内へ広報誌やポスターを使ってアピールし、リソースを活用しやすい環境作りに努めた。
 - ② リソースナース便りの発行(1回/3カ月 回覧板で全職員向け)
 - ③ リソースナースポスターの掲示(1回/3カ月 1階職員用エレベーターホール)
内容:リソースの活動の PR や各分野のトピックスなどのお知らせ
 - ④ 広報誌 ジャーナルへの投稿 (4回/年)

- 2) 院外活動

- (1) 2020 年度 もも脳ネット 多職種連携強化のための研修会:コロナ禍での地域連携

2021 年 1 月 24 日 「新型コロナウイルス感染症の感染対策」

講師:原清美

- (2) 「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム 20

2021 年 2 月 5 日 「NICU の入学生と卒業生、NICU 入院時の予後・ファミリーケア」

講師:國安ゆかり

- (3) 「看護師のアセスメント能力向上を目指して」

2020 年 8 月 29 日 フィジカルアセスメント①基礎編 講師:中山智代美

2020 年 10 月 3 日 フィジカルアセスメント②呼吸器編 講師:中山智代美

2020 年 10 月 17 日 フィジカルアセスメント③循環器編 講師:中山智代美

- (4) 岡山県看護協会 「高齢者施設での看護(褥瘡・排泄編)」

2020 年 11 月 17 日 講師:松田晶代

- (5) Conva Tec ストーマケアオンラインセミナー
「オーバーハングしている硬い腹壁への追従性～エスティームやわらか凸を使用して～」
2020年10月17日 講師:松田晶代
- (6) 令和2年度 岡山看護協会 「最近の医療の動向と看護の役割」
2020年9月4日、令和2年12月4日 講師:山下睦子
- (7) 新生児蘇生法 A コース講習会
2020年12月3日 インストラクター:室井晃子
- (8) 令和2年度 リエゾン養成研修会
2021年1月27日 ファシリテーター:國安 ゆかり

3) 各職場での活動

(1) 各部署での活動(実践・指導・相談・調整・教育・研究・倫理調整)

(2) 入院基本料等加算の算定

がん拠点病院加算、がん患者指導管理料(イ)(ロ)、褥瘡ハイリスク患者ケア加算、認知症ケア加算、感染防止対策加算(1)(2)、糖尿病合併症管理料(フットケア外来)、排尿自立指導料人工肛門・人口膀胱造設術前処置加算、早期離床リハビリテーション加算、呼吸ケアチーム加算

表1 リソースナースに係る医療活動の実績(算定件数)

チーム名	担当者	診療報酬	年間件数
感染対策チーム	感染管理認定看護師 溝内・原	対策加算1+連携加算+抗菌薬	12,695
褥瘡対策チーム	皮膚・排泄ケア 認定看護師 松田	在宅療養指導料(170点)	86
		ストーマ処置(1個:70点)	407
		ストーマ処置(2個:100点)	8
		褥瘡ハイリスク患者ケア加算(500点)	1,164
		人工肛門・人工膀胱造設前処置加算(450点)	30
がん化学療法	川口	外来化学療法 加算A(15歳以上600点)	3,756
		外来化学療法 加算B(15歳以上6450点)	210
糖尿病患者 フットケア	本多	糖尿病合併症管理料(170点/月1回)	24
がん患者 カウンセリング	山下・坂本・三谷・ 川口・大口・市・阪倉	がん患者指導管理料1(500点)	284
		がん患者指導管理料2(200点)	94
排尿ケア	松田・研修修了者	排尿自立支援加算(200点/週1回12週まで)	2,612
		外来排尿自立指導料(200点/週1回12週まで)	241
認知症加算	大口	認知症ケア加算	7,656

(3) がん相談支援センター 相談件数 537件

(4) インターンシップ講義や看護学生の就職ガイダンス等へ参加し、活動内容を紹介
インターンシップ開催: 令和2年4月25日、4月26日、5月2日、5月3日

● 活動目的

- 1) WHO/UNICEF「母乳育児がうまくいくための 10 のステップ(2018 年改訂)」に基づき、継続的且つ包括的に母乳育児を支援することを目的として、母乳育児推進室を設置し組織的に運営を行う。
- 2) 支援の対象は、当院で出生した健康な正期産新生児だけでなく、NICU・小児科病棟などに入院する病児とその母親、疾患を持つ母親など、すべての児と母親、その家族とする。
- 3) 母乳育児中の母子だけでなく、疾患などのために母乳育児ができない母子に対しても適切な支援を提供する。

● 活動状況

1. 推進室会議:2 か月に 1 回開催

2. 院内活動

a) 研修

- a) 新採用者向け研修:赤ちゃんにやさしい病院(BFH)オリエンテーション(多田克彦母乳育児推進室長)→2020 年度中止
- b) 初期研修医・学生向け研修:
 - ① 4 月「妊娠・授乳と薬剤」大岡尚美(産婦人科)中村和恵(新生児科)
 - ② 6 月(助産学生)1 月(看護学生)「BFH とは」柚木直子(6A)中村和恵(新生児科)

b) 院内での連携・啓発活動

- a) 各病棟からの授乳婦の母乳育児相談(随時)
- b) 妊娠・授乳と薬剤に関する相談(妊娠と薬外来、薬剤部と連携)
- c) 児が NICU に入院した母子分離の母親の 2 週間健診開始(4 月～)
- d) 退院後の支援の再編:乳房センター→子育て支援センターと名称を変更し、乳房ケアにとどまらない子育て支援を目指す(2021 年 1 月～)
- e) 「赤ちゃんにやさしい病院」職員認知度アンケートの実施(2021 年 2 月)

3. 院外への情報発信

a) 保健医療従事者対象

- a) 小児救急医療研修(成育医療研修):講義・病棟見学→2020 年度中止
- b) 岡山県看護協会・新人助産師研修:
講師:有道順子(外来)小谷教恵(6A)、多田克彦(産婦人科)、中村和恵(新生児科)
- c) BFH 連絡会議参加(オンライン)11 月 15 日:有道順子、常久幸恵、柚木直子、中村和恵

b) 患者様ご家族、一般の方対象

- a) わいわいサークル 毎週木曜、月 1 回ミニ講座開催(離乳食・虫歯予防・子どもの服薬・救急時の対応など)→感染対策のため現在休止中
- b) 病院フェスタ:BFH や乳児栄養に関する情報提供、啓発活動→2020 年度中止

- c) 出前講座
 - ① 南方子育て支援センター育児講座:7月中村和恵(新生児科)
 - ② 中高生への性教育(6A助産師)→2020年度中止
- d) 育児相談事業(看護協会)2月
- e) 国際助産師の日(看護協会) BFHポスター展示

4. 赤ちゃんにやさしい病院月間(毎年8月1日-31日)

- a) 世界母乳育児週間(8月第1週)にあわせて、2017年より8月を「赤ちゃんにやさしい病院」月間と設定し、乳幼児の栄養に関する啓発活動を行っている。
- b) 2020年度
 - a) 「赤ちゃんにやさしい病院」新聞を作成・配布(一般外来者・各病棟)
 - b) 院内掲示物等確認のラウンド(母乳代用品のマーケティングに関する国際規準違反の確認:産科・小児科外来・授乳室など)

5. 業績

- 1) 母親の側からみた母乳育児の科学的エビデンス -母乳育児と肥満-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020; 14: 60-67(2020年7月)総説
- 2) 母乳育児と母親のこころの問題 -母親のニーズと不安の原因-
多田克彦
日本母乳哺育学会雑誌 2020; 14: 80-88(2020年7月)総説
- 3) 妊婦, 授乳婦における薬に対する意識調査
平澤ゆみこ, 上野杏菜, 羽藤加奈恵, 田頭尚士, 山本 宏, 常久幸恵, 多田克彦, 中村和恵
日本小児臨床薬理学会雑誌 2019; 32: 125-132(2020年8月)
- 4) Tada K, Miyagi Y, Nakamura K, Yorozu M, Fukushima E, Kumazawa K, Nakamura M, Kageyama M.
The optimal prepregnancy body mass index for lactation in Japanese women with neonatal separation as analyzed by a differential equation. Acta Med Okayama 2021; 75(1): 63-69
- 5) Nakamura K, Matsumoto N, Nakamura M, Takeuchi A, Kageyama M & Yorifuji T. Exclusively breastfeeding modifies the adverse effect of late preterm birth on gastrointestinal infection: nationwide birth cohort study in Japan. Breast Med 2020; 15(8): 508-515

● 活動目的

ボランティア室は、独立行政法人国立病院機構岡山医療センターの基本方針に基づいて、病院ボランティアにより患者さんが安らげる療養環境作りと地域社会に寄与することを目的として、平成17年に設立されました。

病院ボランティアは、病院の医師、看護師、その他の職員と協力して、患者さんに寄り添い、患者さんがもつ不安を軽くすることによって安心して治療を受けることができるよう、自発的に無償で、病院を利用する人のためにサービスを提供する人で、ボランティアの皆様には専門職ではなくてもできる仕事のお手伝いを行っていただいています。

● 活動状況

次のような活動を月曜日から金曜日の間(祝日除く)で行っていただきました。

- ・院内への案内
- ・受付の援助
- ・車椅子の介助
- ・小児病棟読み聞かせ
- ・環境整備(花壇手入れ等)
- ・縫製
- ・言語傾聴 等

しかし、2020年度はコロナ禍であり、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部活動を中止するなど積極的な活動が行えなかったが、工夫して活動を行った。

- 3月 読み聞かせ、裁縫ボランティア 活動中止
 - 4月 外来ボランティア 活動中止
 - 6月 外来ボランティア(環境整備活動のみ) 活動再開
 - 7月 ボランティア 活動再開
- (裁縫ボランティアは、病棟訪問なしで受注対応)

ボランティアを支えるボランティアコーディネーターを採用し、年間通して組織として活動を支援できる体制を構築した。病院とボランティアの架け橋となり、ボランティア活動へ相互の意見が反映させ、積極的な活動へつなげることが可能となっている。

● 募集活動

コロナ禍であり、活動に制限があったため、積極的な人員確保活動、活動範囲の拡大は図らなかったが、2名の新規登録者があった。今後における募集活動については、感染状況を見据えて対応していく必要がある。

● 活動目的

(目的)

当院受診中の患者さんやそのご家族、当院をこれから受診しようとされている患者さんやそのご家族、以前に当院を受診されたことのある患者さんやそのご家族、といった当院に関わる全ての方々の疾病に関する医学的な質問並びに生活上及び療養上の不安等、といった様々な相談に対応し、個々の問題を解決することを目的に設置

● 活動方針など

(方針)

各部門の対応窓口(以下「対応窓口」とする)の支援体制の確立

対話による問題の整理と明確化、及び代弁・仲介機能による的確な対応、対応窓口への移行の実施

(対象者)

1. 当院受診の患者さん又はそのご家族
2. 当院をこれから受診しようとされている患者さん又はそのご家族
3. その他の関係者

(業務)

1. 相談業務は相談内容に応じて、直接対応あるいは担当者への案件の取り次ぎ
2. カンファレンスを週1回程度開催。相談内容により必要に応じて担当者の参加を求め、取り組みの評価を行うことによる業務体制の見直し
3. 案件によっては、医療安全管理委員会との連携
4. 相談窓口の設置目的、機能、活用方法、各部門における対応等についての、院内配布物や院内イントラネットを通じた各部門への周知・徹底
5. 患者相談窓口の活動に関した、相談に対応する職員、相談後の取扱、相談情報の秘密の保護

(相談方法)

相談方法は、原則として電話相談／対面相談で対応

(窓口の場所)

相談を行う場所は下記の場所とし、相談内容に応じて、適宜場所の選定をすることが望ましい。原則は1.～3.の順に利用

1. 入院相談室 (当院本館2F)
2. 相談室1.2 (当院西棟2F)
3. 患者相談室 (当院本館2F)

(相談の記録)

1. 最初に電話又は対面で相談、対応した室員は、別紙「患者サポート室対応簿」に記載
2. 担当者は、相談内容及びその後の対応について、別紙「患者サポート室日誌」に記載

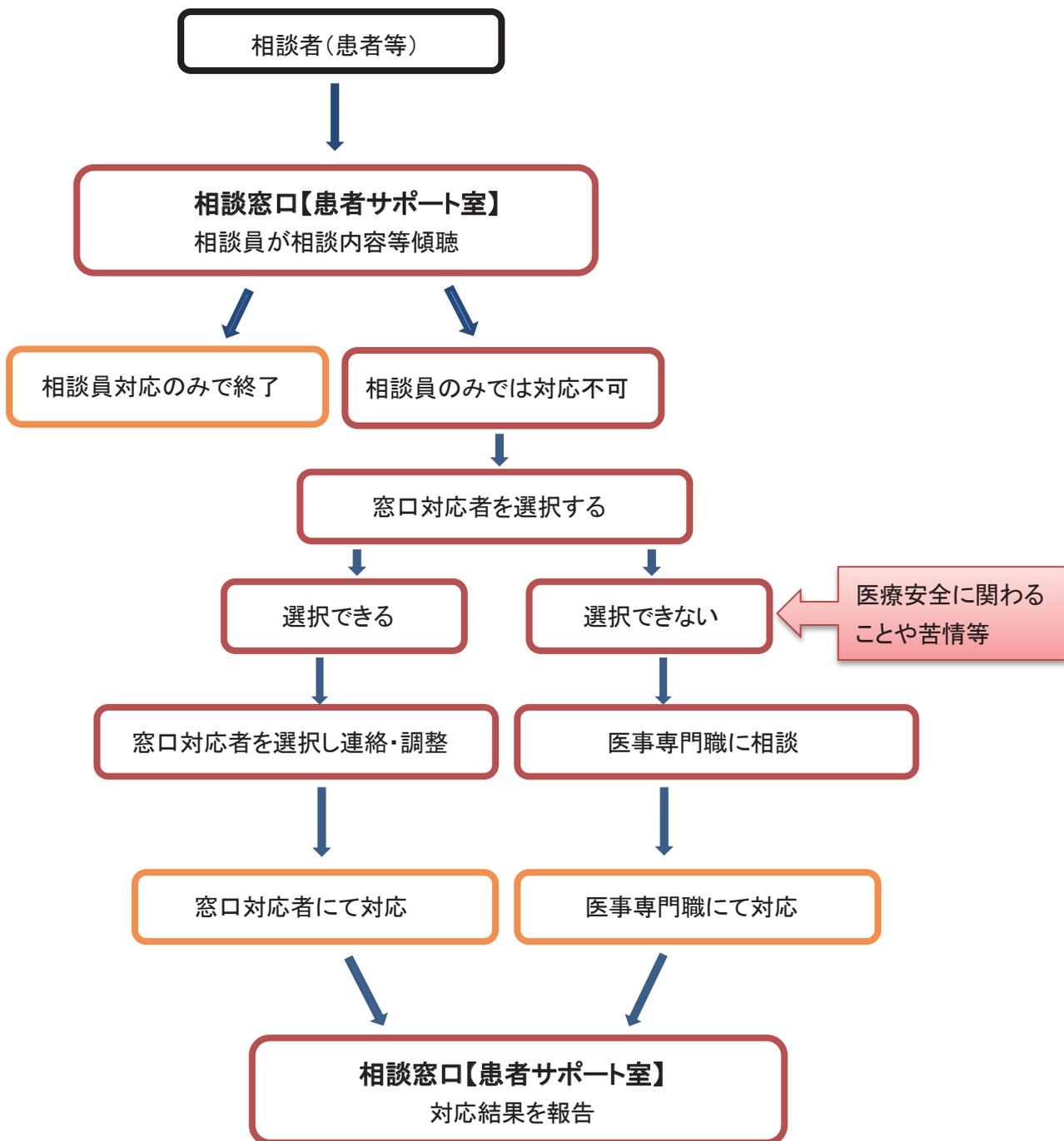
(報告体制)

1. 相談の実績は、日報・月報・年報を作成し、室長の決済後、院長に報告
2. 緊急の対応を要する場合は、直ちに室長から、院長へ報告

(不利益を受けない配慮)

室の業務に関連して、患者さんが不利益を受けないように適切に配慮

患者サポート室患者相談対応フロー



【相談スペース】

- ・医事カウンター横「入院相談室」
- ・西棟 2 階 「相談室 1」「相談室 2」
- ・企画課(医事)内にある「患者相談室」

※ 患者サポート室を通さずに直接各部署で対応した場合も、相談後の取扱い・その他の必要事項について、患者サポート室に報告を行う。

● 患者サポート相談案件(2020年度[2020年4月～2021年3月までの延べ件数])

①直接相談室へ来られた相談件数	778
②電話による相談件数	24
③各部門へ依頼した相談件数	9
④診療に関する相談件数	475
⑤苦情・クレームの相談件数	34
⑥その他の相談件数	302

●活動目的

認知症による行動・心理症状や意思疎通の困難があつて、身体疾患の治療への影響が見込まれる入院患者に対し、専門知識を有する医師・看護師及び多職種が適切に対応をすることで、認知症症状の悪化を予防し、身体疾患の治療を円滑に受けられることを目的とする。

●活動状況

1. 認知症患者のケアに係るカンファレンスを週1回程度実施し、原則診察の上「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」のランクを判断して診療録に記録する。
2. 週1回以上、各病棟を巡回し、病棟における認知症患者に対するケアの実施状況を把握し病棟職員への助言等を行う。
3. 身体的拘束の実施基準や鎮静を目的とした薬物の適正使用等の内容を盛り込んだ認知症ケアに関する手順書(マニュアル)を作成のうえ、院内の必要な部門に提示して活用させる。なお、認知症ケアの実施状況等を踏まえ、定期的に当該手順書の見直しを行う。
4. 認知症患者に関わる職員を対象として、認知症患者のケアに関する研修を定期的実施する。
5. 看護部の認知症ケア委員会と認知症ケア推進のための合同会議の開催。

●活動実績

1. 看護部認知症ケア委員会との合同会議 1回/2ヶ月
2. 教育研修活動
 - ① 室主催の研修会

2020年6月2日(火) テーマ「認知症について」

講師:真邊室長

方法:伝達講義

 - ・COVID-19 感染対策のため、全体研修が企画できず、認知症ケア委員会で委員を対象に講義を行い、伝達講習を通して、各部署への基礎知識の周知図った。
 - ② 認知症ケア委員会での事例検討会
 - ・事例分析ツールを用いて事例検討し、委員の知識やスキルの向上を図った。それを基に、各部署で実際の患者カンファレンスで活用し、個々の看護師の認知症ケアに関わる視点を広げ、ケアの質向上を図った。
 - ③ 院外研修参加

国立病院機構グループの認知症ケア研修:認知症ケア委員2名、一般スタッフ1名参加。

3. 週一回のラウンドおよびカンファレンス

- ・ 毎週水曜日：A病棟
- ・ 毎週木曜日：B病棟、西棟

4. 月別および部署別ラウンドおよびカンファレンスの延べ件数

2020 年度

部署 月	10 A	10 B	9 A	9 B	8 A	8 B	7 A	7 B	6 A	5 A	西 2	西 4	合計
4月	18	4	28	18	25	2	22	10	0	7	0	10	144
5月	17	3	5	9	20	7	18	18	0	2	0	5	104
6月	20	4	8	5	12	5	13	6	0	4	0	14	91
7月	31	6	16	4	27	2	20	17	1	5	0	18	147
8月	21	7	13	11	29	6	9	21	0	5	0	8	130
9月	11	11	14	5	26	10	28	21	0	10	0	11	147
10月	17	25	18	13	26	4	15	21	0	8	1	15	163
11月	12	3	17	14	23	1	24	21	0	4	3	9	131
12月	18	9	14	6	14	3	9	25	2	2	1	4	107
1月	18	7	15	10	16	8	8	17	1	4	1	0	105
2月	15	6	17	0	20	4	13	17	0	0	2	1	95
3月	20	4	13	6	26	5	16	14	1	6	1	0	112
合計	218	89	178	101	264	57	195	208	5	57	9	95	1,476

※ カンファレンスにより、加算対象外の判定や加算解除となった数も含む

【認知症ケア加算1】 総合入院体制加算2の施設基準の要件の一つ

イ. 入院日数 14 日以内 160 点/日 患者に関与し始めた日から算定

※ 2020 年度より評価体系の見直しが行われ+10 点となった

ロ. 入院日数 15 日以上 30 点/日

※ 身体拘束を実施した日は、イ・ロともに所定点数の 100 分の 60 相当の点数(減算)

5. せん妄ハイリスク患者ケア加算のシステム構築

2020 年度新設) 入院中 1 回 100 点

一般病棟入院基本料等を算定する病棟において、入院早期にせん妄のリスク因子をスクリーニングし、ハイリスク患者に対して、非薬物療法を中心としたせん妄対策を行うことについての評価。

- ① 算定に関わる業務フローの作成と周知
- ② 標準看護計画の作成

● 活動目的

- ・ 2018年度から始まった専門医制度において認定されているプログラム(当院は基幹施設と同時に他のプログラムの連携施設)が円滑に運営されるために設置されている。
- ・ 患者さんからの信頼のもと標準的な医療提供を目標とした、医師の専門研修の支援を行う。
- ・ 連携施設として専攻医を受入れる。

● 活動状況

1. 全体

2020年 4月 1日 教育研修部オリエンテーション

2. 内科

2020年 4月 1日 専攻医と指導医の顔合わせの会
 7月 10日 第1回 内科専門研修委員会
 第1回 内科専門医研修プログラム管理委員会
 7月 31日 内科専門医研修プログラム連携施設説明会
 11月 25日 第2回 内科専門研修委員会
 2月 5日 第2回 内科専門医研修プログラム管理委員会
 3月 10日 第3回 内科専門研修委員会(年度評価の承認、修了認定)

- ・ J-OSLER 関係(技術・技能評価、多職種評価、症例・病歴要約査読等)の入力支援
- ・ 連携施設として参加している基幹施設のプログラム管理委員会への出席(リモートでの参加含む)
- ・ 室における内科専攻医との面談や意見交換(随時、あるいは室長面談に同席)

■ 修了報告

NHO 岡山医療センター内科専門医研修プログラム 2018年度(1期生) 8名修了



(内科専攻医1期生 修了記念撮影)



(内科専門医研修プログラム管理委員会 リモート開催)

3. 外科

2020年 9月 13日 第1回外科専門研修管理委員会

2021年 2月 6日 第2回外科専門研修管理委員会

4. 総合診療科

2021年 2月 9日 2020年度研修状況について報告

- ・ オンライン研修手帳 J-GOAL(技術・技能評価、多職種評価等)の入力支援

5. 専攻医への支援

- ・ 専攻医内科外来(毎日)の診察補助
- ・ 専攻医事務補助(手続き、出張手続きなど)

6. その他の活動

- ・ 専攻医受け入れ、転出に関する事務(諸手続き・資料作成)
- ・ 専攻医研修スケジュール等の調整・資料作成
- ・ 当院専攻医希望者の病院見学の対応
- ・ 研修に関する連携施設との調整
- ・ 専門医制度に関する統計等の整理・管理

● 専攻医数

◆ 基幹施設プログラム

内科専門医研修プログラム	22名	(1年目:7名 2年目6名、3年目9名)
外科専門医研修プログラム	3名	(1年目:1名、2年目:2名)
総合診療科専門医研修プログラム	1名	(1年目:1名)

◆ 連携施設からの受入れ 24名 (6ヵ月～1年間)

- ・ 内科 7名
 - 1名(岡山大学病院内科専門医研修プログラム)
 - 2名(岡山赤十字病院内科専門医プログラム 上期1名・下期1名)
 - 2名(岡山ろうさい病院内科専門研修プログラム 上期1名・下期1名)
 - 2名(津山中央病院内科専門研修プログラム 上期1名・下期1名)
- ・ 外科 2名(岡山大学広域外科専門研修プログラム)
- ・ 小児科・新生児科 4名(岡山大学病院小児科医専攻研修プログラム)
- ・ 皮膚科 2名(岡山大学病院皮膚科研修プログラム)
- ・ 整形外科 3名(岡山大学整形外科専門研修プログラム)
- ・ 産婦人科 3名(岡山大学産婦人科研修プログラム)
- ・ 泌尿器科 1名(岡山大学泌尿器科専門研修施設群専門研修プログラム)
- ・ 放射線科 1名(岡山大学病院放射線科専門研修プログラム)
- ・ 麻酔科 1名(岡山大学病院麻酔科専門研修プログラム)

●活動目的

多職種からなるチーム活動により、院内全体の呼吸器ケアを要する患者に対するケアの質と安全性の向上を図る。その活動は人工呼吸器の安全管理のみならず、患者の気道管理、体位管理、排痰援助、呼吸筋リハビリテーション、口腔ケアなど多岐にわたり、多職種の知恵と技術を結集してそれらに対する助言と指導を行う。

●活動状況

1. のべ介入患者数:132 名
 - a) 人工呼吸器:95 名 内 IPPV:22 名 NPPV:23 名
 - b) ネーザルハイフロー:38 名

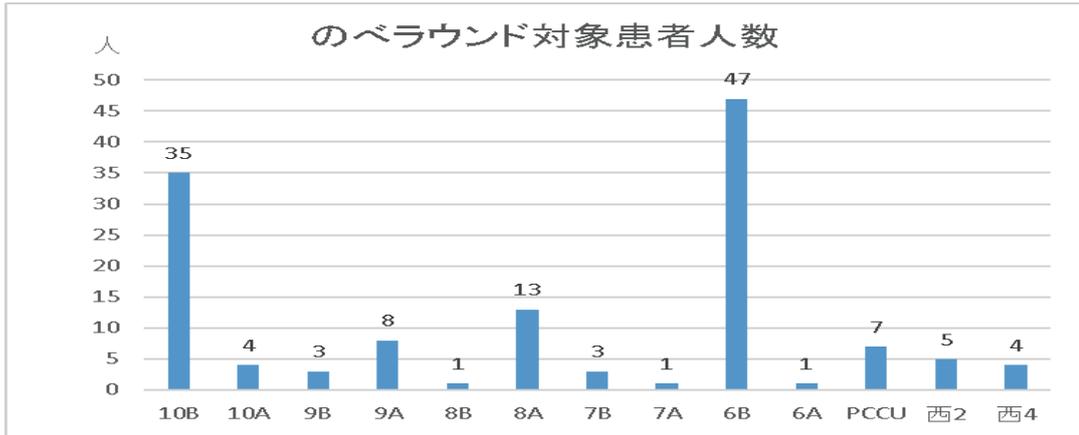
2. 人工呼吸器離脱率 (入院時より在宅用人工呼吸器装着患者は除く)
 - a) 人工呼吸器離脱患者(NPPV 含む) :20 名(40 名中) 離脱率:50.00%
 - b) 人工呼吸器離脱患者(NPPV 含まない) :9 名(17 名中) 離脱率:52.94%
 - c) NPPV 離脱患者:11 名(23 名中) 離脱率:47.83%

3. その他人工呼吸器装着患者の転帰(NPPV 含む)
 - a) 装着のまま転院:66 名(内入院時より人工呼吸装着患者 56 名)
 - b) 死亡:25 名
 - c) 治療継続中:5 名(入院時より人工呼吸装着患者 4 名)

4. 平均人工呼吸器装着日数:19.30 日
(入院時人工呼吸器装着患者除くと 12.68 日)

5. 回診件数:306 回 (呼吸ケアチーム加算回数:141 回)

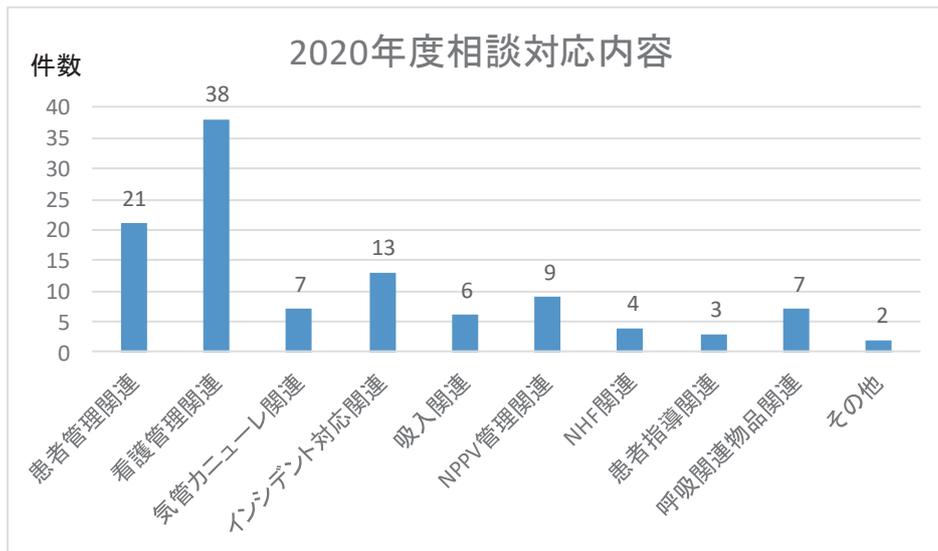
6. 病棟別のベラウンド対象患者数



7. 勉強会、研修会の実施

- ・2020.4 西 2 病棟;人工呼吸器装着患者の看護
- ・2020.5 西 2 病棟;COVID-19 に対する人工呼吸器のセッティングと管理
- ・2020.5 5A 病棟 ;人工呼吸器管理について
- ・2020.9 実地指導者看護師;人工呼吸器の装着と管理
- ・2020.10 6A 病棟;NHF について
- ・2020.12 看護職員;COVID-19 患者及び疑似症患者の気管挿管介助と薬剤について
- ・2021.1 7B 病棟;NHF と NPPV について
- ・2021.2 7B 病棟;人工呼吸中の生理的変化と人工呼吸器の仕事
- ・2021.2 6B 病棟;小児の人工呼吸管理

8. 相談対応:110 件



9. 歯科衛生士と看護師による人工呼吸器装着患者の口腔ケア件数 : のべ 57 回

10. その他

- ・医療安全マニュアル【人工呼吸療法における安全対策マニュアル】改訂
- ・COVID-19 患者の呼吸療法マニュアル作成
- ・人工呼吸器指示表改訂
- ・呼吸管理に関連したデバイス導入と管理指導
 - ① スピーチカニューラ検討 : メラソフィット導入
 - ② 経皮的血液ガスモニター導入
 - ③ レスピセーフバンド ・ 気管カニューレ固定具『ささえ』導入
 - ④ スタイレット付き挿管チューブ
 - ⑤ 自動カフ圧コントローラ
- ・COVID-19 感染症の影響による物品供給不足に関する対応

● 活動目的

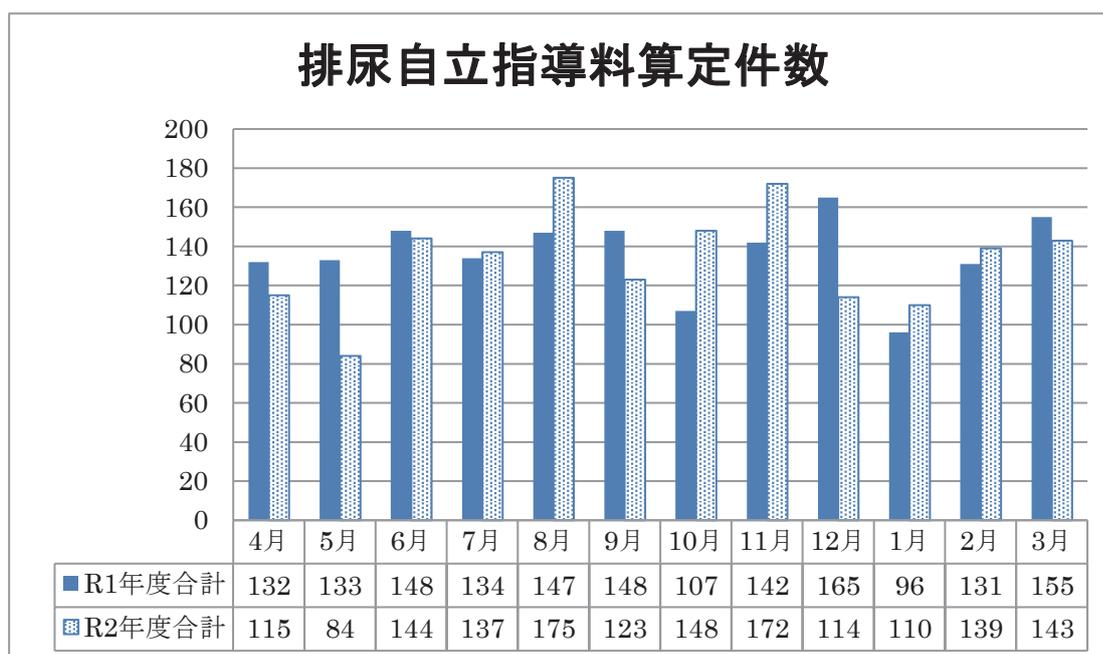
2019 年度より排尿ケア推進室として認可されています。今回で活動報告は 3 回目となります。

1. 国立病院機構岡山医療センターにおける患者の排尿自立支援を推進する目的に、多職種と協力して排尿ケアの実践と院内教育を行う。
2. 室の業務は次のとおりとする。
 - a) 下部尿路機能障害の症状(尿失禁、尿閉等)を有する患者の抽出
 - b) 下部尿路機能評価のための情報収集
 - c) 下部尿路機能障害を評価し、排尿自立に向けた計画を策定
 - d) 包括的排尿ケアに対する病棟スタッフへの指導とケア実施後の評価
 - e) 排尿自立指導の実践状況(尿道カテーテル留置患者数、排尿チーム介入患者数、排尿障害件数、有熱性尿路感染症件数等)を把握する
 - f) 院内研修の実施

● 活動状況

1. 2020 年度の活動状況

- a) 排尿ケアラウンドとして、毎週月曜日に病棟へ出向き、個々の症例について排尿自立に向けた計画を策定、実践した
- b) 奇数月に排尿ケアチームによる委員会と、勉強会を開催した
- c) 排尿ケアチームに携わる資格取得のため、所定の研修を新規に 3 名が受講した
- d) 全職員を対象に、2020 年 8 月 6 日、8F 大研修室にて排尿ケア院内研修会を開催し、47 名の受講者があった





● 活動目的

入院患者の褥瘡の予防及び早期発見・治療、褥瘡ケアの質の向上を目的とする。

● 活動状況

1. 褥瘡対策マニュアルの改訂・追加
2. 局所陰圧閉鎖療法 of 算定漏れについて調査・対策
3. 入院基本料に関する活動
 - 1) 日常生活自立度評価:100%、褥瘡に係る診療計画書の記載:100%
 - 2) 体圧分散式マットレスの整備を実施
 - 破損・消耗しているマットレスは 25 台あり、回収・交換を実施
 - エアマットレスの整備:劣化による破損 3 台
 - エアマットレスのレンタル導入開始:50~60 台/月使用
4. 褥瘡に係るカンファレンス・褥瘡回診の実施
5. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算(500 点)に関する活動
 - ・褥瘡ハイリスク患者に対してアセスメントを実施し褥瘡予防治療計画書を作成・実施・評価
 - ・院内研修の実施

本年は予定していた年 4 回開催の集合研修を実施せず、各病棟での伝達講習を実施。

● 活動実績

1. 毎週月曜日に褥瘡回診を実施
回診・カンファレンス延べ件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	16	14	26	23	18	23	25	24	16	20	28	25

1 回の回診:平均 5 件 所要時間:約 1 時間~1 時間半

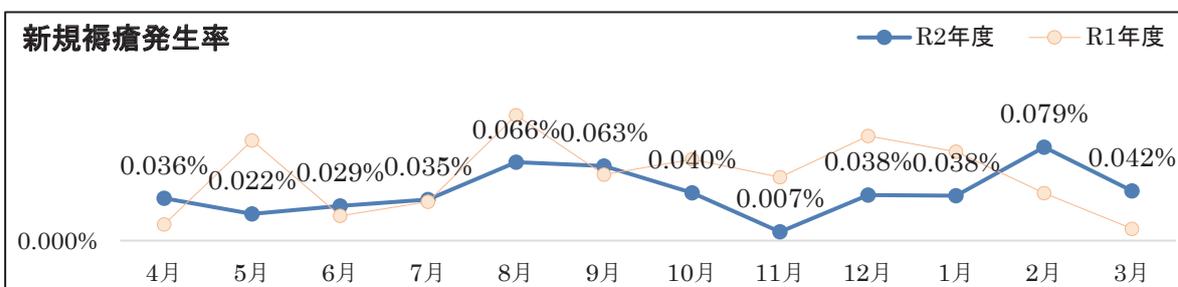
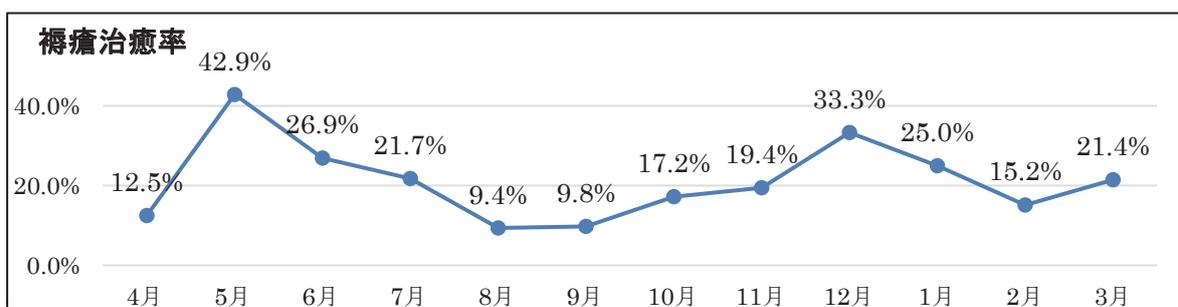
COVID-19 治療による褥瘡や MDRPU の予防・治療には、病棟師長・スタッフとともに写真を用いてカンファレンスを行い対応している



2. 褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	137	62	92	119	116	110	36	84	128	116	85	78

3. その他データ



●研究業績等

1. 講演・講義

1) 高齢施設での看護[褥瘡・排泄編]講義

松田晶代(皮膚・排泄ケア認定看護師)

岡山看護協会研修

2020年11月17日

2) 「褥瘡の基本とスキンケア」講義

松田晶代(皮膚・排泄ケア認定看護師)

岡山医療センター附属看護助産学校

2020年10月1日・6日

2. 講演

1) convatec online seminar 京都橘 WOC スクール修了生中国地区オンラインセミナー

松田 晶代

岡山医療センター

2020年10月17日